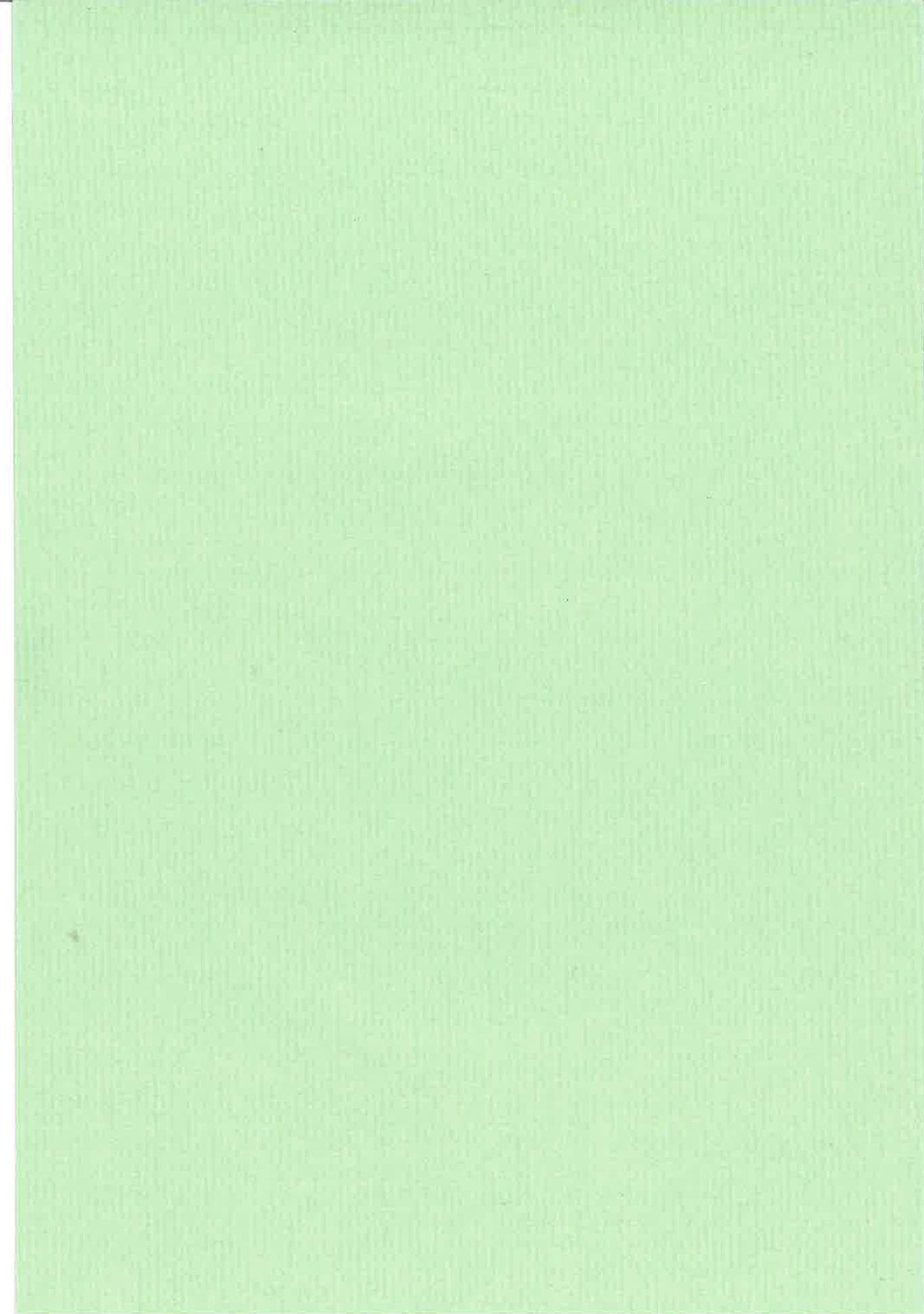
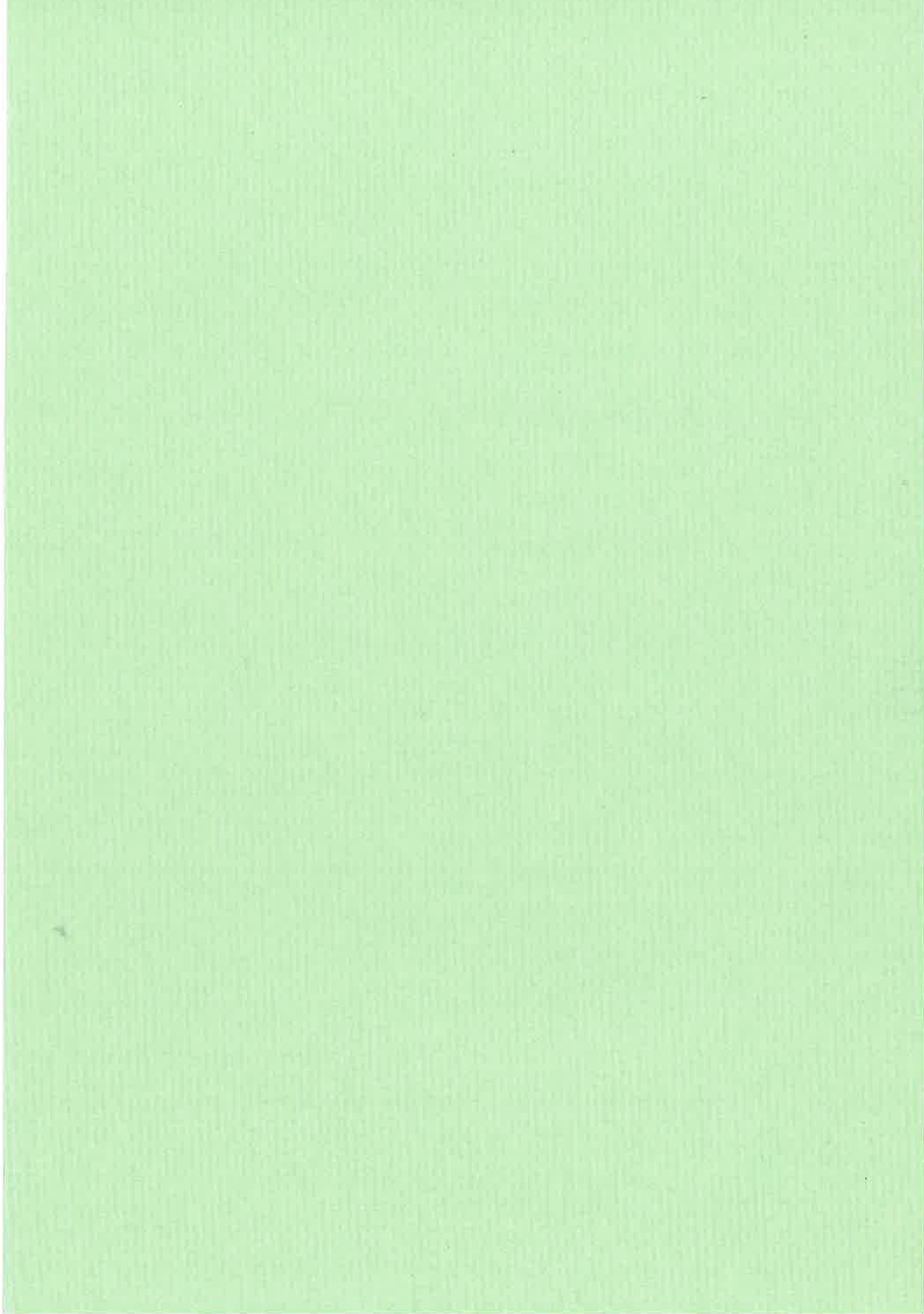


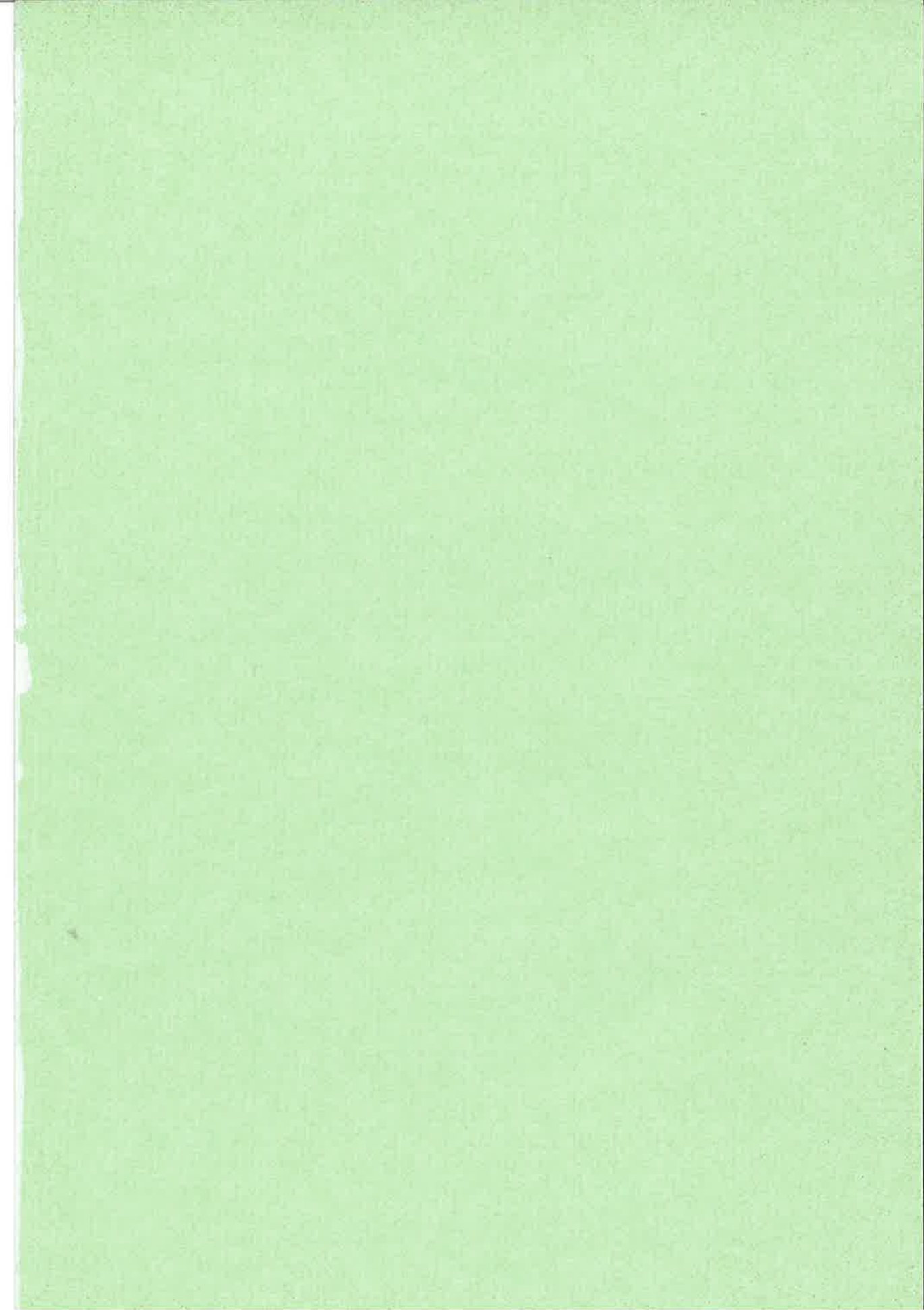
図書館100年の歩み



萩市立図書館







図書館100年の歩み

萩市立図書館



阿武郡立萩図書館



山口県立萩図書館

萩図書館創設100周年を迎えて



萩図書館が創設され100年を迎える。明治34年1月30日に山口県萩中学校の敷地内に篤志家からの寄付により建設される。県内最初の公立図書館であり、また郡立図書館としては全国最初のものと言われている。

図書館はその地域の文化のバロメーターであり、図書館を見ればその地域の民度が分かるとまで言われている。何故この萩の地にいち早く図書館が創られたの

だろうか。萩には、藩政時代藩校明倫館とともに松下村塾はじめ数多くの私塾が軒を並べ防長2州の教育の中心地であったため民度が高く、その後維新前夜に藩庁が山口に移り行政等の中核的機能は失うものの教育を大事にする気風は強く残っていた。そのような事情が一方にはあるが、今から100年前は萩出身者が全国で活躍する「萩の時代」であったことも事実である。100年前、時の総理は第二次内閣の山県有朋公に引き続き第4次内閣の伊藤博文公であり、6月には桂太郎公にと続く。政治のみならず経済、技術、文化等各分野で萩出身がきら星の如く名を連ね活躍する時代であった。このような歴史背景の中で萩在住の郷党も大いに志高く、中学校の独立運動を展開し、明治32年秋、山口中学校から独立して萩中学となり校舎を江向から堀内の地に移転新築する。郡立萩図書館の創設は、かかる「萩の時代」を象徴する事業ではなかろうか。

その後、県立から市立図書館となるなど紆余曲折を経て、昭和49年に現在の地に新築移転され今日に至っている。このような歴史があるだけに蔵書として貴重な古文書、稀覯本等も沢山あるが、和蘭書はじめ初期の英語教育に使用された教科書等も多数保存されている。日本英学史学会、英語教育史学会等が萩の地で開催されるのはこのような図書が多く保存されている理由による。

またこの間にあって対市民の図書館活動も大変活発であったと聞く。戦後の各時期の図書館だよりひとつ見ても当時の活発な活動の片鱗を伺い知ることが出来る。まだ移動図書館のない時期に各地区にトランク型の小型書庫を貸し出し、子

供達の読書に供していた。私事にわたり恐縮だが、昭和30年前後に私の母が世話役をしており我家の玄関口が子供図書館同然となっていたことを思い出す。現在は国際ソロプチミストからの多額寄付による移動図書館用車両により機動力を持った図書館活動として継承されている。

創設100年に当たり、今まで図書館に多大の理解と支援をいただいた多くの先達、現在運営に熱心に取り組んでいる職員各位、絶大な協力をいただいている協議会委員はじめ関係各位に心より敬意と感謝を申し上げたい。

現在、萩市立図書館は、蔵書の一層の充実、IT（情報技術）の活用、施設改善等取り組まねばならぬ多くの課題を抱えている。市民各位から信頼と期待される図書館を目指し関係の皆様とともに努力をしてまいりたい。

平成13年1月30日

萩市長 野村興兒

目 次

萩図書館創設100周年を迎えて	
図書館創設迄と沿革	1
図書館の沿革図	5
阿武郡立・山口県立萩図書館概要	6
沿革	
諸則	
役員	
歴代館長	
経費	
基金	
蔵書	
成績	
蔵書数・閲覧人員の推移	
施設概要	
萩町立・市立図書館概要	21
蔵書数・閲覧人員の推移	
萩市立図書館概要	28
施設概要	
歴代館長	
萩市立図書館協議会委員一覧	
予算及び資料費の推移	
貸出指数の推移	
貸出冊数・登録者数の推移	
萩市立図書館事業概要（平成11年度）	38
月別館外貸出冊数	
年代別利用者の割合	
貸出文庫	
移動図書館	
蔵書状況	

図書館100周年によせて	44
い動図書館の方々へ	岩谷 夏樹
ワクワク号とわたし	大田 瑛子
100周年おめでとうございます	河村 隆子
利用者からの要望	河村 一郎
人生で一番幸せだったころ	北村 知紀
わくわく号の走る町	桧垣 杲子
萩市立図書館開設の思い出	松田 輝夫
私の子育て時代の思い出 ～こどもの本との出会い～	宮田真理子
萩市立図書館創設100年に寄せて	吉田 弥生

図書館史年表	55
--------------	----

参 考 資 料	59
---------------	----

萩市立図書館の建設に向けた議会の動き

陳情書

表 紙	萩市立図書館
表紙カット	沢本良秋 氏
裏表紙	移動図書館わくわく号

図書館創設迄と沿革

藩政期

萩藩五代藩主毛利吉元は堀内追廻に享保3年（1718）藩校明倫館を設立し、同4年1月に開校式を行った。総坪数940坪、書庫は敷地東端近くにあり、土蔵づくりで2階建、広さは8坪であった。

蔵書は多くあった。歴代藩主や諸家からの献本がありまた館自体でも多くの本を購入したからである。年数がたつと図書の貸し出しがルーズになり、所在不明の本が増加した。天保11年（1840）2月明倫館蔵書印のある図書はすべて返納することを命じたが徹底しなかった。翌年3月同様の命令を出したがそれでも回収できなかった。そこで13年（1842）12月学頭山県太華は取締規則11条を定めた。主な項目は次のようなものである。

一、生徒中から司典（図書係）を任命し蔵書係とする

一、御書物方（司書）2名をおく

一、学頭を書庫長（図書館長）とし御書物方が蔵書の出納を行い、生徒の書庫出入りを禁止する

一、貸出日は毎月3、8の日、借用期間は6日間授受には掛買立会のこと

一、生徒外の書籍借用は御書物方に申し込み手形を提出のこと

この規則から今の学校図書館と同じような機能を果たしていたことがわかる。また一般の人にも図書の貸出しを行っていた。新館移転間際には蔵書数推定約2万5千冊でかなり手ぜまになっていたと思われる。

創建130年後の嘉永2年（1849）13代藩主毛利敬親により江向に新明倫館が完成した。2月に落成式を挙行新館は1万5千坪の敷地に建坪2千7百坪という広大なもので、書庫は講堂の前に建てられ約24坪であった。明倫館の図書はきちんと分類、整理され、蔵書点検、曝書も行われていた。この他図書の出版事業にも力を入れていた。幕末、藩庁の移動にともない教育の中心も山口に移っていった。

明治以降

山口県は明治5年萩支庁内に掲示所を設けて雑誌などを一般に公開し、明治7年、明倫館内に書籍の展覧場を設け各種新聞、訳書等を自由に閲覧させた。明倫

館は巴城学舎となり明治13年に県立萩中学、明治17年山口中学の分校となる。

紆余曲折を経て明治37年に山口県立萩中学が堀内の新校舎で開校した。

これに先だって明治31年頃萩に図書館設置運動がおこった。目的は萩のような僻遠の地に、よい教師を招くため、また教師の勉学のためであった。阿武郡長大田瀧熊が、郡内の素封家で文化事業に関心の深い滝口吉良、菊屋剛十郎、西村礼作、岡十郎氏らに寄付をよびかけ明治34年に阿武郡立図書館が県立萩中学校校内の東南隅に開館した。建築にあたっては京都帝国大学図書館を参考にしたという。これは我が国最初の郡立図書館であり、県下最初の公立図書館であった。郡内の諸家から多くの図書の寄贈、寄託があり、その大半は現在の市立図書館に一部は萩高に所蔵されている。館長は萩中校長の兼務であり、これは大正12年郡制の廃止により県立図書館となっても変わらなかった。

明治43年1月に開館10年を記念し、菊屋安子、滝口房子両氏により婦人閲覧室を増築寄贈。当時の新聞に「近頃到着せる有益にして趣味多き新刊図書は室内の書棚に在りて、御婦人方の御来閲を待ち侘び候」とある所から、一部の図書の開架も行っていたものと思われる。明治44年7、8月には西田町に夏期出張閲覧所を設け「通俗的読物」「精神修養なるもの」、新刊、雑誌、新聞等を揃えて閲覧に供した。大正3年の新聞によると湯茶の用意もされていたようである。以後いつ頃まで続いたか記録がない。一方明治43年8月に明倫尋常小学校内に私立明倫文庫が創設され、翌年5月に私立明倫図書館と改称、45年には萩町立明倫図書館となる。その後大正5年に椿村立椿図書館が大正6年村立椿東図書館が大正12年に村立山田図書館、村立越ヶ浜図書館が、各小学校に創設される。

大正12年4月郡制が廃止され、阿武郡立図書館は山口県立萩図書館となった。

萩町、椿東村、椿村、山田村が合併して萩町となり各村立図書館も萩町立図書館と名称が変わった。

そして大正13年には大井村立図書館と三見村立図書館また14年には六島村立大島図書館がそれぞれの小学校に、昭和3年には、木間小学校内に町立木間図書館が4年には見島村立図書館が見島小学校内に設置された。前後するが、大正11年の防長新聞には「西南萩人」の署名で「郡立図書館を町中央に移して、一般人が利用しやすいようにせよ。蔵書も新しい多方面の図書を入れよ。小学校にある図書館にも新しい本をウンと購入する必要がある」という意見がみられる。図書館の数は増えたが充実した読書環境ではなかった様子がわかる。一方昭和6年には県立図書館の婦人閲覧室にある開架図書の紛失により閉架にもどすとの記事が見える。

昭和20年終戦を機に萩市の図書館も大きく変わることになる。戦後対策審議会の答申により市内各国民学校にある図書館を1ヶ所にまとめ、各学校に図書を巡回することになった。建物は土原旧警察署のそばにある防空講習所をあて、2階を閲覧室に1階は書庫にし、萩市立図書館と改称した。県立萩図書館はC I Eの指令により一部図書の封鎖焼却等を行った。昭和22年には貸出文庫に「勤労文庫」を特設し、勤労青年のための文庫とした。23年にはユネスコ協会の萩事務局を図書館に置く。またG H Q寄贈のアメリカの図書・雑誌室を設け24年には青空図書館の開設等新しい図書館を目指している様子がうかがえる。一方C I Eの強力な指令と萩市戦後対策審議会からの要望により、昭和25年、萩市は江向公民館隣に図書館を新築し県に無償貸与した。この時市立図書館も合併し、昭和26年に開館式と創立50年式典が行われた。館長も兼任がとりやめられ司書の館長が誕生した。新図書館には明るい児童室が設けられ、最新の翻訳書や全集がおかれ学校帰りの子どもたちが次々おしかけにぎわった。昭和27年には童話研究会が誕生し図書館での「どうわ会」が毎月開かれた。また児童憲章制定を記念して巡回児童文庫を開始した。

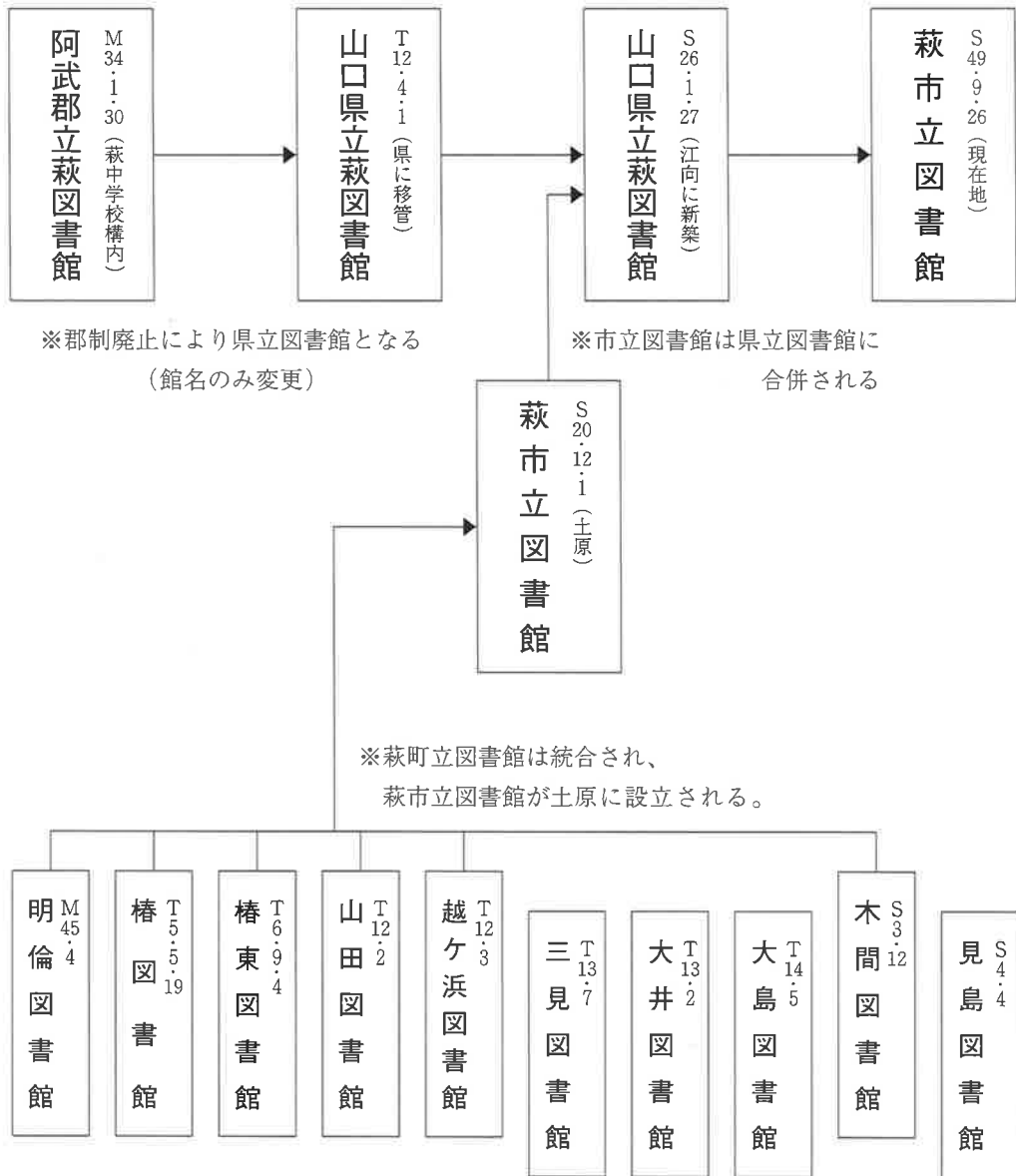
31年には見島丸船上図書館を開設。童話研究会も35年には人形劇を開始し、公民館大講堂での公演・離島巡回公演等を行い、当時のこどもの文化に大きく貢献した。38年夏菊ヶ浜に青空図書館を開設し海水浴にきた人達に読書を楽しんでもらった。しかし次第に図書費が減り、児童室は新しい本が入らないため、利用がほとんどなくなり、職員の削減もあって38年秋児童室を閉鎖した。その後県の「一県一館」の方針のため館長は教育事務所長の兼務となり、更に定員が減り、資料費もつかなくなり、図書館は受験生の勉強部屋となり、住民からは期待されなくなった。その後萩市に移管の方向で話し合いがされ、昭和48年には開館以来の貴重な図書はそっくり萩市に移管され、県立図書館は73年の歴史を閉じた。49年、現在の場所に市立図書館が建てられ9月26日に開館式が行われた。新市立図書館は貸し出しに重点をおき誰もが気軽に利用できる図書館を目指した。特に小さい時から読書の楽しみを知り幼児期からの読書習慣を培うために他の図書館に先がけて絵本の収集に力を入れ、紙芝居の貸出しも始めた。またお母さん方のための絵本講座を実施する等児童奉仕に力を入れた運営を行った。この講座の受講生を中心に54年には読書会（あんずの会）「こどもの本の勉強会」55年には「布の絵本の会」57年には「ストーリーテリングの勉強会」が誕生した。

その後布の絵本の会は「布の絵本展」「布の絵本と遊ぶ会」「布と遊ぶほう手作り会」等を開催し、最近では布の絵本を持って市内の保育園訪問等を行っている。

また「ストーリーテリングの勉強会」の会員が中心になって始めた「むかしむかしの会」は、今は司書により毎土曜日行われている。一方、童話研究会の会員が中心になって司書も加わり、昭和50年6月から「こどもの会」を毎月第1土曜日に始めたが、現在は司書が行っている。

開館当初、図書費が充分でなかったため、こども室はおしかけるこども達により棚がガラあきになった。その折ロータリークラブによって寄贈された「ロータリー青少年文庫」は、その後も図書の補充がされ20年間続いた。貸し出し制限冊数は最初2冊から3冊、4冊と増やし平成2年CDの貸し出しと共に6冊とした。最初はゆとりのあった書架も、図書の増加と共に増設をくり返し、閲覧室がせまくなったため平成7年に改修工事を行い、レファレンス室、こども室を2階に移し1階ブラウジングコーナーにゆとりをもたせ、雑誌150種を購入、やきものコーナーも設けた。スペースにかぎりのある中でのこととはいえこども室を2階にしたことは利用する人たちには不便であり、今後の課題である。一方市立図書館設立当初から、5ヶ年計画にあがっていた移動図書館は、その後財政事情等から見直しが続けられ開館後10年たって実現しなかったが、平成4年国際ソロプチミスト萩の認証10年を記念して愛称を公募、「わくわく号」と名づけられた移動図書館車が萩市に寄贈され、8月に開設式を挙行、10月から運行を始めた。市内の保育園、小学校、漁協、老人施設等28ヶ所を2週間をに一度巡回し、「こども達が本を読むようになった」と喜ばれている。まだ全市域をカバーしてはいないが、「いつでも、誰でも、どこでも」の図書館サービスの原則にかなり近づいたといえよう。社会状況の変化とともに図書館界もコンピュータ化が進み、萩市立図書館でも早い時期から研究、勉強をして来たが、平成6年から新規受入図書にバーコードを貼り始め平成8年、9年と和書等旧蔵書を除く全図書にバーコードを貼り、平成10年に図書のデータ化を完了、12月にコンピュータシステムの起動式を行った。書庫内の図書も利用者端末で検索され、充分利用されるようになりAV資料を含め1人12点の貸し出しとなり、利用しやすくなったと思われる。平成11年に少子化対策特例交付金により児童用ビデオを購入し、平成12年4月から貸し出しを始めた。現在約450点のビデオはひっぱりだこである。書庫内にある県立萩図書館、旧萩市立図書館の図書は、利用のために、各種目録を発行したがこれ等のデータ化は今後の課題の1つである。

図書館の沿革図



(数字は設立年月日)

阿武郡立・山口県立萩図書館概要

沿 革

明治33年1月15日本郡明木村瀧口吉良同萩町菊屋剛十郎の二氏より図書館建物一切を新築して本部に寄附せんことを願い出つ同月22日郡会は二氏の寄附を受理すること図書館敷地として県立萩中学校敷地の一部借用を県知事に願い出つること図書購入費として33及34両年度継続費として金8000円を支出すること及び同じく図書費として33及34両年度に於いて県費3000円の補助を請願することを決議す同月25日萩中学校敷地の一部借用の願書を県知事に提出す3月27日許可せらる同月31日図書館建物寄附許可せらる11月8日図書費として33及34両年度に於て県費3000円補助稟請書を県知事に提出す同月9日本館設立稟請書を文部大臣に提出す12月10日本館設立認可せらる。

明治34年1月4日郡令第1号を以て本館規則及び閲覧人心得を定む同月15日県立萩中学校長雨谷羔太郎本館長に高麗殿丸本館書記に任命せらる同月22日本館職制を定む同月30日開館式を挙行す当時創設費全額6250円内館舎建築費5,000円同諸費250円書函其他備品費850円雑費150円にして悉く有志者の寄附になる2月7日県知事より瀧口吉良、菊屋剛十郎、國重政亮、岡十郎、小川久吉、熊谷萬吉、西村禮作、中村正路、蒲貫一の九氏に本館商議員を嘱託す3月12日図書購入費補助聞届けられ34年度に於て金1,500円補助の旨県知事より達せらる

明治35年6月15日図書購入費として本年度に於て金1,500円補助の旨県知事より達せらる

明治36年4月16日郡令第5号を以て本館規則中第5条を削除す5月25日書記高麗殿丸免せらる7月1日村木治郎書記に任命せらる10月9日図書館外貸付規定を定む

明治37年10月12日館長雨谷羔太郎死亡す12月27日県立萩中学校長塚本又三郎本館長に任命せらる11月22日本郡出身先輩に肖像寄附の依頼書を発送す

明治38年8月31日館長塚本又三郎免せらる10月14日県立萩中学校長羽石重雄本館長に任命せらる11月4日図書館外貸付規程第2条を改正す

明治42年4月21日館長羽石重雄免せらる5月26日県立萩中学校長村上俊江館長に任命せらる

明治43年3月4日郡会は菊屋安子及瀧口房子両夫人の婦人閲覧室建築寄附出願

を採用し創立第10周年記念として基金300円巡回書庫準備費100円火災保険料30円記念式費50円を議決す4月1日郡令第4号を以て本館基金設置及管理規則を定む5月2日告示第11号を以て本館巡回書庫規程を定む同日本館図書貸出規程を廃止す5月23日無給助手として桐山四郎及金子敏輔の2名を採用し6月1日より50日間書庫整理館内模様換及婦人閲覧室建築の為に臨時休館す7月10日婦人閲覧室落成す7月21日優待券及特待券規程を定む10月19日始めて巡回書庫を発送す

明治44年3月5日本館創立満10周年記念式を挙行す4月1日より助手に月手当を給す7月7日藤田平太郎本館を視察し基金中に金300円を寄附す7月21日より8月30日迄西田町に夏期閲覧所を開設す経費は町内有志者小林作平、上田伊八、藤川東輔、小原弥一郎、住永孫之進、有吉國蔵、大岡與一郎の寄附金を以て支出す8月31日助手桐山四郎病気の為に辞職す

明治45年3月13日書記村木治郎依頼免職3月27日溝部壯六書記に任せらる3月31日助手金子敏輔新に事務雇に命ぜらる同日山本正時事務雇に命ぜらる7月21日より8月29日迄40日間東田町へ夏期閲覧所を設く経費は館費より支出す9月22日事務雇山本正時辞職す

諸 則

(1) 萩図書館規則 (明治34年1月4日制定)

第1条 本館は内外古今の図書記録及新聞雑誌等を蒐集保存して衆庶の閲覧参考の用に供する所とす

第2条 開館時限は下記の如し、但時宜により伸縮することあるべし

1、3月1日より10月31日まで毎日午前8時より午後5時に至る

1、11月1日より翌年2月末日まで毎日午前9時より午後5時に至る

第3条 閉館日は下記の如し、但臨時の閉館日は其都度之を掲示す

1、歳 始 1月1日より5日まで

1、紀元節 2月11日

1、曝書期 10月中凡10日間

1、天長節 8月31日

1、毎月曜日

1、歳 末 12月28日より同31日まで

第4条 本館の図書は別に定むる規程に依るの外館外へ貸与せざるものとす

第5条（明治36年4月16日郡令第5号を以て削除）

第6条 本館に図書を寄贈せんと欲する者は図書目録冊数価格及住所氏名を記し之を図書に添え送付すべし

第7条 多数の図書を寄贈せんとする者に対しては本館より特に運搬費を支弁することあるべし

第8条 公衆の閲覧に供し若くは保管を請うの目的を以て本館に図書を委託せんと欲する者は其事由目録頁数等を詳記し先づ本館へ照会し承諾を得たる後其図書を送致すべし

第9条 委託の図書は館蔵と同様に取扱うものとする

(2) 図書閲覧人心得（明治34年1月4日制定）

第1条 図書を閲覧せんと欲するものは閲覧證を求むべし

第2条 閲覧證を受けたるときは目録に依り其需むる処の図書名、部門、冊数、番号、及住所氏名を記し之を差出して図書を借受くべし

第3条 図書は閲覧室外に於て閲覧するを許さず

第4条 閲覧室にて音読談話喫煙其他粗暴なる行為を禁ず
但し其行為により再び図書の閲覧を許さざることあるべし

第5条 館外に出づる者は借受の図書を返却すべし

第6条 図書閲覧中紛失或は汚損する等の事ある時は本館指定の現品若くは償金を出さしむることあるべし

第7条 帯酔者と認むるときは入館を許さざることあるべし

(3) 郡立図書館基金設置及管理規則（明治43年4月1日制定）

第1条 郡立萩図書館に基金を設置す

第2条 基金は特別会計とし館長之を管理す

第3条 郡立萩図書館に対し現金品若しは証券の寄附あるときは之を基金に編入す
但し指定の寄附は此限にあらず

第4条 基金は証券を購入するに至る迄は郵便貯金又は確實と認むる銀行に預け入れ利殖するものとする

第5条 基金の管理に要する費用は本経済より之を支弁す

附 則

第6条 本規則は明治43年4月1日より之を施行す

(4) 阿武郡立萩図書館巡回書庫規程 (明治45年3月25日阿武郡告示第8号を以て本文の通り改正)

第1条 阿武郡立萩図書館巡回書庫は郡内公衆の閲覧に供する為めに発送するものとす

第2条 巡回書庫中の書籍は館長の選択する処なるも閲覧者の希望を容るることあるべし

第3条 巡回書庫は本館より本部小学校教務部会の各部の最近学校に発送し部内学校の巡回の順序は各部の内規に一任す各部に於ては地方人士をして図書を利用せしむる様適宜の方法を講ずべし

第4条 巡回書庫は必ず小学校内に保管し当該校長之が管理の責に任ずるものとす

第5条 巡回書庫の回送に要する費用は各部の負担とす

第6条 各部内各小学校に於ける巡回書庫滞在期限は発送の都度館長之を定む

第7条 借覧中図書を紛失若くは汚損したる者は本館指定の現品若くは代金を弁償せしむることあるべし

第8条 本館より書庫の発送を受けたる当該学校は直ちに領収の旨を本館に通知すべし書庫の回還せる時は本館は其旨を最終学校に通知すべし

第9条 部内の巡回を終えたる時は書庫を遅滞なく本館に回送すべし

第10条 部内各学校に於ける閲覧成績に関する1ヶ年の統計は当該学校より毎年4月末日迄に館長に報告すべし館長は更に之を取纏め5月末日迄に郡長に報告すべし

(5) 阿武郡立萩図書館 優待券及特待券規程 (明治43年7月21日制定)

第1条 萩図書館は下記の者に優待券を贈与す

- 1、本館に功勞ある者
- 1、萩中学校職員
- 1、館長に於て必要と認めたる者

第2条 優待券を所持する者は検索票を携えて書庫に入り図書を検索し之を特別閲覧室に於て閲覧するを得

第3条 優待券を所持する者は本館図書を携出借覧することを得、但借用部数は

一時に萩中学校職員は7部以内其他は5部以内とし期限は萩中学校教員は1ヶ年以内其他は3ヶ月以内とす尚引続き借覧せんと欲する者には一旦返却せしめ1ヶ月を経て他に借覧者なき時は再び貸出すものとす

第4条 図書中本館の都合に依り貸出を為さざるものあるべく又新に備え付けたる図書は1ヶ月を経たる後に定期刊行書は装丁の後にあらざれば貸出を為さず

第5条 本館に於て必要ある場合には貸出図書を臨時返納せしむることあるべし

第6条 1ヶ年間100日以上入館閲覧(新聞雑誌の閲覧を除く)せる者には本館長の見込により特待券を贈与することあるべし其期間は次年度1ヶ年とす

但萩中学校生徒は第4学年以上に限る

第7条 特待券を所持する者は検索票を携えて書庫に入り図書を検索することを得

第8条 特待券を所持する者には館長の見込により図書の携出を許す事あるべし

第9条 特待券を所持する者にして不都合の所為ありたる時は特待券を無効とし之を没収する事あるべし

役 員

館長	山口県立萩中学校長	村上俊江
書記		溝部壯六
事務員		金子敏輔
商議員	瀧口吉良 菊屋剛十郎	國重政亮
	岡十郎 小川久吉	熊谷萬吉
	西村禮作 中村正路	蒲貫一

歴代館長

初代	雨谷 羔太郎	明治34年1月～明治37年10月 (明治34年阿武郡立萩図書館)
2代	塚本 又三郎	明治37年10月～明治38年8月
3代	羽石 重雄	明治38年9月～明治42年3月
4代	村上 俊江	明治42年4月～大正5年8月
5代	岩田 博蔵	大正5年9月～昭和2年10月 (大正12年山口県立萩図書館)
6代	河内 才蔵	昭和2年11月～昭和10年10月
7代	津森 馨	昭和10年11月～昭和15年3月
8代	中谷 英眞	昭和15年4月～昭和17年3月
9代	石井 謙三	昭和17年4月～昭和21年3月
10代	納富 貞雄	昭和21年4月～昭和23年3月
11代	安部 豊明	昭和23年4月～昭和24年3月
12代	富永 徳司	昭和24年4月～昭和24年9月
13代	大村 武一	昭和24年10月～昭和25年9月

- 合併後 (専) 大 村 武 一 昭和25年10月～昭和30年4月
(萩市立図書館が山口県立萩図書館に合併)
- 14 代 (専) 安 藤 次 朗 昭和30年5月～昭和31年5月
- 15 代 (専) 森 山 右 一 昭和31年6月～昭和38年6月
- 16 代 田 中 不可止 昭和38年7月～昭和39年3月
- 17 代 (専) 塩 見 信 正 昭和39年4月～昭和41年3月
- 18 代 三 浦 良 一 昭和41年4月～昭和43年3月
- 19 代 林 定 人 昭和43年4月～昭和46年3月
- 20 代 中 村 守 俊 昭和46年4月～昭和47年3月
- 21 代 河 田 久 昭和47年4月～昭和48年3月
- 22 代 浜 田 勝 彦 昭和48年4月～昭和49年3月

(専) 専任館長

経 費

年 次	経 常 費		臨 時 費		県費補助	図書購入 金 額
	予 算	決 算	予 算	決 算		
32 年 度 (34年1月～同3月)	235,185	331,411	4,000,000	2,221,262	—	2,221,262
34 年 度	626,260	625,672	4,000,000	4,278,730	1,500,000	4,278,730
35 年 度	995,625	993,727	2,500,000	2,495,133	1,500,000	2,495,133
36 年 度	1,150,866	1,144,715	—	—	—	499,537
37 年 度	815,986	815,702	—	—	—	199,900
38 年 度	815,657	783,366	—	—	—	199,179
39 年 度	1,023,288	1,022,387	—	—	—	349,807
40 年 度	1,150,061	1,151,260	—	—	—	499,980
41 年 度	1,188,360	1,188,175	—	—	—	499,990
42 年 度	1,259,412	1,259,240	—	—	—	499,970
43 年 度	1,766,031	1,765,801	—	—	—	500,000
44 年 度	1,264,931	1,272,931	—	—	—	435,540
大正元年度	1,234,137	1,119,060	—	—	—	499,000

基 金

- 基 金 691,275円
- ・勸業債券……………690円
 - ・該券利子……………1円27銭5厘

蔵書

大正2年3月31日現在図書冊数

部	門	和漢書 冊数	洋書 冊数	合計
第一門	宗教	399	37	436
第二門	哲学	2,876	134	3,010
	教育	436	61	497
第三門	文学	4,463	309	4,772
	語学	945	561	1,506
第四門	歴史	6,037	455	6,492
	伝記	1,212	148	1,360
	地理	372	91	463
	紀行	280	40	320
第五門	国家学	280	89	369
	法律	654	18	672
	経済及財政	147	69	216
	統計	123	4	127
	社会	129	22	151
第六門	数学	300	98	398
	理学	709	137	846
	医学	237	17	254
第七門	工学	116	43	159
	兵事	903	17	920
	芸術	895	76	971
	産業	755	21	776
第八門	類書	2,735	50	2,785
	叢書	435		435
	随筆	168	1	169
	雑書	661	53	714
	児童少年読物	(和書) 316		316
合計		26,583	2,551	29,134

備考／新聞雑誌及び目録は本表中に計算せぬ

成 績

(1) 明治33年度～大正元年度 図書閲覧者累年比較

年 次	学 生	教 員	官公使	其 他	婦 人	合 計	開館日数	1日平均
33年度 ^{1月～3月}	553	48		9		610	53	12
34 年 度	4,508	441	2	147		5,098	285	18
35 年 度	3,647	931	3	244		4,825	293	17
36 年 度	4,275	1,050	7	673		6,005	294	20
37 年 度	4,880	2,374	190	528		7,972	291	27
38 年 度	3,923	4,798	289	474		9,484	291	33
39 年 度	3,577	6,230	275	495		10,577	292	36
40 年 度	3,439	5,591	251	786		10,067	291	35
41 年 度	4,371	7,631	238	613		12,853	292	44
42 年 度	5,697	7,904	433	754		14,788	291	51
43 年 度	5,702	3,715		783		10,200	259	40
44 年 度	5,784	9,581		3,336		18,701	256	63
大正元年度	4,571	7,687		3,973	50	16,281	290	56

(2) 大正元年度 図書閲覧人員種別表

年 月	学 生	教 員	官公使其他	婦 人	合 計	開館日数	1日平均
4 月	231	835	249	3	1,318	25	53
5 月	412	1,019	379	10	1,820	27	67
6 月	522	757	526	7	1,812	26	69
7 月	603	709	507	3	1,822	25	73
8 月	195	623	473	2	1,293	27	50
9 月	545	618	272	5	1,440	22	65
10 月	824	462	384	6	1,676	27	62
11 月	299	497	293	5	1,094	21	52
12 月	162	420	152	2	736	19	38
1 月	254	463	190	1	908	22	41
2 月	240	561	252	2	1,055	23	46
3 月	284	723	296	4	1,307	26	50
合 計	4,571	7,687	3,973	50	16,281	290	56

(3) 明治45年4月1日～大正2年3月31日 図書閲覧人員区別表

種 別	和 漢 書	洋 書	和 漢 書	洋 書	計
	館 内	館 外	館 内	館 外	
神 書 宗 教	14	12	20	61	107
哲 学	84		1,008	246	1,338
教 育	61	4	545	152	762
文 学	508	14	1,617	447	2,586
歴 史	151	3	890	107	1,151
語 学	55	7	303	196	561
伝 記	159	2	534		695
地 理	63	1	248		312
紀 行	53	7			60
国 家 学	2				2
法 律	9		370		379
経 済	4		287		291
社 会	4		1	7	12
数 学	99		485		584
理 学	78		91		169
医 学	12		72		84
工 学	10	3			13
兵 学	35		27		62
芸 術	85	1,137			1,222
産 業	48	2	283		333
類 書	4		131		135
叢 書	40		44		84
随 筆	11				11
雑 書	52	2	360		414
雑 誌	1,901		317	133	2,351
新 聞	2,444		110		2,554
目 録					
統 計	9				9
合 計	5,995	1,194	7,743	1,349	16,281

備 考／本年度内婦人閲覧者50人あり、閲覧図書は婦人閲覧室に備え付け書架を自由に閲覧したるを以て其部門を定め難し依て雑誌の内に入る

(4) 明治45年4月1日～大正2年3月31日 閲覧図書冊数表

種 別	和漢書(冊)	洋 書(冊)	計 (冊)	閲覧人員
宗 教 ・ 哲 学 ・ 教 育	8,016	1,313	9,374	2,207
文 学 ・ 語 学	16,118	2,696	18,814	3,147
歴 史 ・ 伝 記 ・ 地 理 ・ 紀 行	11,937	3,464	15,401	2,118
国 家 ・ 法 律 ・ 経 済 ・ 統 計 ・ 社 会	1,851	325	2,176	693
数 学 ・ 理 学 ・ 医 学	6,966	250	7,216	837
工 学 ・ 芸 術 ・ 産 業 ・ 兵 事	13,543	8	13,551	1,630
類 書 ・ 叢 書 ・ 随 筆 ・ 雑 書	6,405	187	6,592	644
雑 誌 ・ 新 聞 ・ 目 録	7,080	1,509	8,589	4,905
合 計	71,916	9,752	81,713	16,181

備 考／貸出書籍の計算は1人10冊の書籍を10日借受けたる時は1人日々10冊の書籍を10日間閲覧したるものとして計算す婦人は本年度間50人来りしも其閲覧図書は婦人閲覧室備付の図書を自由に閲覧せるを以て雑誌を読みたるものとして雑誌の部に計上す

(5) 明治44年7月21日～8月30日 市中派出夏期閲覧所成績表

種 別	学 生	教 員	一般入	合 計	開館日数(日)	一日平均
図 書 閲 覧 者	166	5	77	248	41	6
雑 誌 ・ 新 聞 閲 覧 者	116	18	109	243		6
計	282	23	186	491		12

(5) 明治45年7月22日～大正元年8月29日 市中派出夏期閲覧所成績表

種 別	学 生	教 員	一般入	合 計	開館日数(日)	一日平均
図 書 閲 覧 者	1,270	39	111	1,420	39	36
雑 誌 ・ 新 聞 閲 覧 者	4,179	131	1,184	5,494		141
計	5,449	170	1,295	6,914		176

備 考／閲覧図書25種、冊数1,425冊
7月31日御大喪に付臨時休館

蔵書数・閲覧人員の推移

年 度	職員数	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
明治33		11,446	53	610	阿武郡立図書館創立 (M34.1)
34		—	285	5,098	
35		—	293	4,825	
36		19,793	294	6,005	
37		—	—	—	
38		—	—	—	
39		25,288	292	10,577	
40		26,693	291	10,087	
41		28,369	292	12,853	
42		29,394	291	14,788	
43		30,914	260	10,255	50日間の書籍整理臨時休館
44		29,240	296	18,701	
大正元		29,145	290	16,281	
2		29,774	293	14,749	
3		30,620	288	15,186	
4		31,109	291	13,936	
5		31,805	296	19,471	
6		32,359	294	20,956	
7		32,653	287	25,439	
8		33,095	289	29,195	
9		33,434	288	26,113	
10		33,765	294	29,448	
11		34,129	292	29,993	
12		34,759	291	27,984	県立図書館に移管
13		35,200	294	17,030	
14		35,794	297	17,546	
昭和元		36,249	293	18,688	
2		37,465	296	20,686	
3		37,816	293	23,318	

年 度	職員数	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
昭和 4		38,125	292	24,540	
5		38,600	297	41,773	
6		39,078	295	41,146	30周年記念式 (S 6.10.14)
7		39,445	291	33,625	
8		41,588	293	36,286	
9		42,686	293	25,563	
10		43,376	297	39,372	
11		44,193	296	39,059	
12		45,138	296	37,386	
13		45,585	295	15,266	
14		47,370	296	12,771	
15		48,384	294	11,371	
16		48,490	294	7,923	
17		48,746	301	20,517	※18～20・22年 資料なし
21	5	50,242	284	42,546	
23	5	51,609	304	45,944	
24	8	67,926	234	—	
25		57,280	—	86,580	
26	8	69,442	292	125,398	萩市立図書館が合併
27	8	71,943	294	131,000	
28	8	72,658	292	131,795	
29	8	73,352	288	115,200	
30	7	73,889	288	120,045	職員減
31	7	74,380	286	119,216	
32	6	74,785	286	60,060	職員減
33		—	—	—	
34	6	75,579	275	40,086	
35	6	76,106	270	41,172	
36	5	76,494	277	45,697	職員減
37	5	76,912	276	45,502	

年 度	職員数	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
昭和38	5	77,319	278	40,419	
39	5	77,668	277	35,536	
40	5	77,965	277	30,653	
41	5	78,263	276	35,406	
42	5	78,057	—	33,518	
43	4	78,598	—	39,396	職員減
44	4	79,128	—	23,426	
45	2	79,468	—	24,415	職員減
46	2	79,758	—	21,426	
47	2	79,997	—	23,581	
48	2	74,850	—	—	
49	4	45,853	—	—	市立図書館へ

施設概要

館 名 山口県立萩図書館
所在地 萩市江向517番地
開 館 昭和26年1月27日
敷地面積 3,274坪
建築面積 本 館 391坪
大講堂 266坪
図書館 362坪
電 話 367

書庫は一般室との境を防火壁により遮断、各開口部は防火戸及び防火シャッターで遮断し、130,000冊の収蔵可能。

各閲覧室共夜間閲覧を考慮し、照明には特に留意。新聞閲覧室は喫茶室をも兼ね軽い気持ちで新聞が読める様に設備がされていた。

萩町立・市立図書館概要

蔵書数・閲覧人員の推移

年 度	図書館名	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
大正元 (明治45)	明倫図書館	2,777	299	11,196	(明治45年4月開設)
2	〃	2,715	300	11,292	
3	〃	2,846	300	11,414	
4	〃	2,964	288	12,110	
5	〃	3,143	300	12,973	
	椿 図 書 館	1,093	215	7,585	(大正5年5月開設)
6	明倫図書館	3,215	314	12,268	
	椿 図 書 館	1,122	318	8,974	
	椿東図書館	348	131	286	(大正6年9月開設)
7	明倫図書館	3,352	300	23,564	
	椿 図 書 館	1,254	348	7,746	
	椿東図書館	413	240	673	
8	明倫図書館	3,390	301	22,889	
	椿 図 書 館	1,274	349	5,860	
	椿東図書館	430	250	685	
9	明倫図書館	2,432	300	25,776	
	椿図書館	1,318	337	6,372	
	椿東図書館	435	247	690	
10	明倫図書館	4,830	302	34,519	
	椿 図 書 館	1,396	342	7,243	
	椿東図書館	476	240	904	
11	明倫図書館	6,027	303	25,037	
	椿 図 書 館	1,445	346	7,439	
	椿東図書館	485	242	940	
12	明倫図書館	6,254	302	17,338	※大正12年各村立図書館は町立図書館となる
	椿 図 書 館	1,506	346	7,738	

年 度	図書館名	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
大正12	椿東図書館	601	247	1,324	
	山田図書館	426	335	1,418	(大正12年2月開設)
	越ヶ浜図書館	223	294	193	(大正12年3月開設)
13	明倫図書館	6,689	302	18,575	
	椿 図 書 館	1,565	345	7,157	
	椿東図書館	601	250	2,150	
	山田図書館	502	292	2,185	
	越ヶ浜図書館	331	294	411	
14	明倫図書館	6,878	301	17,120	
	椿 図 書 館	1,649	250	5,587	
	椿東図書館	637	250	2,210	
	山田図書館	561	291	2,132	
	越ヶ浜図書館	405	289	523	
昭和元	明倫図書館	6,993	298	15,860	
	椿 図 書 館	1,807	220	3,856	
	椿東図書館	865	246	3,620	
	山田図書館	—	—	—	
	越ヶ浜図書館	—	—	—	
2	明倫図書館	7,095	300	17,127	
	椿 図 書 館	1,902	295	2,987	
	椿東図書館	1,055	260	4,200	
	山田図書館	664	290	2,176	
	越ヶ浜図書館	634	264	4,095	
	三見図書館	1,379	199	9,512	(大正13年7月開設)
	大井図書館	718	270	4,123	(大正13年2月開設)
	大島図書館	295	325	670	(大正14年5月開設)
3	明倫図書館	7,472	302	17,209	
	椿 図 書 館	2,091	290	2,146	
	椿東図書館	1,186	253	3,648	
	山田図書館	751	240	2,754	
	越ヶ浜図書館	684	240	3,365	

年 度	図書館名	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考	
昭和 3	三見図書館	1,430	228	14,705		
	大井図書館	713	268	3,394		
	大島図書館	420	320	635		
	木間図書館	565	81	227	(昭和 3 年12月開設)	
4	明倫図書館	7,814	303	18,904		
	椿 図 書 館	2,146	295	2,005		
	椿東図書館	1,373	256	4,917		
	山田図書館	822	285	3,241		
	越ヶ浜図書館	552	294	3,050		
	三見図書館	1,208	208	11,700		
	大井図書館	825	231	2,144		
	大島図書館	421	320	744		
	木間図書館	694	292	1,898		
	5	明倫図書館	8,057	301	13,885	
		椿 図 書 館	2,216	290	3,430	
椿東図書館		1,457	263	5,009		
山田図書館		892	284	3,316		
越ヶ浜図書館		617	250	2,646		
三見図書館		1,245	216	11,700		
大井図書館		852	235	2,384		
大島図書館		430	320	771		
木間図書館		894	348	1,708		
見島図書館		100	290	240	(昭和 4 年 4 月開設)	
6		明倫図書館	8,291	302	10,865	
	椿 図 書 館	2,224	280	3,200		
	椿東図書館	1,529	325	4,379		
	山田図書館	938	286	3,395		
	越ヶ浜図書館	725	243	2,511		
	三見図書館	1,256	232	11,580		
	大井図書館	924	222	2,414		
	大島図書館	440	320	752		

年 度	図書館名	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
昭和 6	木間図書館	1,037	251	1,612	
	見島図書館	108	310	353	
7	明倫図書館	8,835	292	13,558	
	椿 図 書 館	2,254	269	2,820	
	椿東図書館	1,595	286	5,670	
	山田図書館	985	300	1,558	
	越ヶ浜図書館	781	245	2,663	
	三見図書館	—	—	—	
	木間図書館	—	—	—	
8	見島図書館	—	—	—	
	明倫図書館	8,980	292	13,585	
	椿東図書館	1,629	315	9,135	
	越ヶ浜図書館	820	231	2,919	
	椿 図 書 館	2,274	280	3,160	
	山田図書館	1,037	290	4,924	
	三見図書館	1,218	250	6,675	
	大井図書館	977	226	2,097	
	大島図書館	470	325	840	
	木間図書館	1,146	245	1,435	
10	見島図書館	122	310	352	※昭和9年度資料なし
	明倫図書館	9,843	290	13,201	
	椿東図書館	1,825	317	10,417	
	越ヶ浜図書館	989	297	2,863	
	椿 図 書 館	2,404	285	2,990	
	山田図書館	1,254	289	8,136	
	三見図書館	1,306	250	4,513	
	大井図書館	1,109	226	1,537	
	大島図書館	381	325	345	
	木間図書館	1,364	247	1,025	
11	見島図書館	152	365	1,766	
	明倫図書館	9,843	290	13,201	

年 度	図書館名	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
昭和11	椿東図書館	1,825	317	10,417	
	越ヶ浜図書館	989	297	2,863	
	椿 図 書 館	2,404	285	2,990	
	山田図書館	1,254	289	8,136	
	三見図書館	1,306	250	4,513	
	大井図書館	1,109	226	1,537	
	大島図書館	381	325	345	
	木間図書館	1,364	247	1,025	
	見島図書館	152	365	1,766	
	12	明倫図書館	10,571	291	34,405
椿東図書館		2,018	286	9,047	
越ヶ浜図書館		1,407	295	2,874	
椿 図 書 館		2,542	283	3,113	
山田図書館		1,387	289	7,045	
三見図書館		1,520	250	3,848	
大井図書館		1,190	230	1,185	
大島図書館		394	200	800	
木間図書館		1,541	246	1,011	
見島図書館		175	330	1,833	
13	明倫図書館	10,876	290	33,915	
	椿東図書館	2,127	265	8,591	
	越ヶ浜図書館	1,478	247	2,181	
	椿 図 書 館	2,567	283	3,210	
	山田図書館	1,454	288	7,690	
	三見図書館	1,542	250	2,075	
	大井図書館	1,196	235	862	
	大島図書館	429	198	925	
	木間図書館	1,637	243	968	
	見島図書館	175	315	1,945	
14	明倫図書館	10,967	290	33,621	
	椿東図書館	1,932	255	6,272	

年 度	図書館名	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
昭和14	越ヶ浜図書館	1,488	150	2,316	
	椿 図書館	2,573	280	5,600	
	山田図書館	1,535	275	7,548	
	三見図書館	1,550	250	1,250	
	大井図書館	1,227	243	1,496	
	大島図書館	450	200	945	
	木間図書館	1,676	245	1,091	
	見島図書館	210	318	1,578	
15	明倫図書館	11,027	290	3,768	
	椿東図書館	2,007	249	5,848	
	越ヶ浜図書館	1,624	140	2,834	
	椿 図書館	2,547	211	2,450	
	山田図書館	1,632	185	7,325	
	三見図書館	1,570	250	860	
	大井図書館	1,239	238	957	
	大島図書館	493	225	843	
16	明倫図書館	11,202	282	27,014	
	椿東図書館	2,121	256	5,132	
	越ヶ浜図書館	1,651	226	1,630	
	椿 図書館	2,553	200	2,460	
	山田図書館	1,568	360	7,450	
	三見図書館	1,500	242	4,729	
	大井図書館	1,260	235	1,033	
	大島図書館	520	250	853	
17	明倫図書館	11,423	290	26,833	
	椿東図書館	2,216	265	6,003	
	越ヶ浜図書館	1,023	226	1,634	

年 度	図書館名	蔵書冊数	開館延日数	閲覧延人員	備 考
昭和17	椿 図 書 館	2,549	211	2,450	
	山田図書館	1,665	255	6,835	
	三見図書館	1,500	242	1,918	
	大井図書館	1,268	216	643	
	大島図書館	490	320	651	
	木間図書館	1,891	245	1,122	
	見島図書館	290	330	1,320	※18～20年度資料なし
21	萩市立図書館	12,351	296	40,177	明倫・椿東・越ヶ浜・椿・山田・木間の図書館は統合され、萩市立図書館が土原に設立される。市立図書館は26年、山口県立萩図書館に合併される。
22	萩市立図書館	—	—	—	
23	萩市立図書館	12,810	292	42,758	
24	萩市立図書館	13,489	295	46,891	
25	萩市立図書館	—	—	43,636	

※各町村立図書館長は学校長が兼務した

萩市立図書館概要

施設概要

所在地 萩市江向552-2 (〒758-0041)

敷地面積 5,250m²

建築面積 624m²

延床面積 1,350m²

電話 0838-25-6355

F A X 0838-25-5224

図書館検索システム I N S 0838-24-0360

アナログ 0838-25-5450

開館時間 平日 9時30分～17時30分

土・日曜 9時30分～17時

休館日 月曜日

国民の祝日（祝日が月曜日の場合はその翌日）

館内整理日（毎月第3水曜日・祝日の場合はその翌日）

年末年始（12月28日～1月4日まで）

特別整理期間

歴代館長

初代	黒川純行	昭和49年4月～昭和52年9月
2代	塩田吉春	昭和52年10月～昭和52年11月
3代	田坂利人	昭和52年12月～昭和54年3月
4代	井町新熊	昭和54年4月～昭和56年3月
	(副館長 中村道吾	昭和54年4月～昭和55年3月)
	井町新熊	昭和56年4月～昭和57年3月
	(副館長 河村一郎	昭和56年4月～昭和57年3月)
5代 (専)	河村一郎	昭和57年4月～昭和62年3月
6代	谷井季夫	昭和62年4月～昭和63年3月
	(副館長 河村 津	昭和62年4月～昭和63年3月)
7代 (専)	小松昭一	昭和63年4月～平成6年3月
8代 (専)	近藤隆彦	平成6年4月～平成8年3月
9代 (専)	吉村忠美	平成8年4月～平成12年3月
	(副館長 村上杏子	平成10年4月～平成12年3月)
10代 (専)	田中博守	平成12年4月～

(専) 専任館長

萩市立図書館協議会委員一覧

昭和49年度～昭和51年度

- 1号委員 田中不可止 古川 正次
2号委員 下村 晃久 末永 梅尾 西林 直輝
3号委員 菊地 正信
4号委員 恵本美也子
5号委員 山本 勇 ○田中 助一 佐伯 一男

昭和51年度～昭和53年度

- 1号委員 井町 新熊 一(中村道吾)
2号委員 豊田 隆晴 村上 操子 永田 秀一 古屋 潔
3号委員 上田 重治
4号委員 阿武美智子
5号委員 藤田 栄作 ○渋谷 辰 津村 和彦

昭和53年度～昭和55年度

- 1号委員 師井ミドリ子
2号委員 鈴木 五男 上野 里子
3号委員 河本 開一 岩崎 三郎
4号委員 三元 精美 堀 勇
5号委員 松永 妙子 ○山本 大和 小茅 嘉治 一(小林久繁)

昭和55年度～昭和57年度

- 1号委員 師井ミドリ子
2号委員 森下 正次 村上 操子
3号委員 三好 敏明
4号委員 三元 精美 古谷 良道
5号委員 ○山本 大和 河村 公行 小林 久繁 松永 妙子

昭和57年度～昭和59年度

- 1号委員 中原 光
2号委員 森下 正治 村上 操子
3号委員 増野 克己
4号委員 三元 精美 堀 勇
5号委員 ○山本 大和 奥野 正治 松永 妙子 柳井 義明

昭和59年度～昭和61年度

1号委員 田中 隆
2号委員 森下 正治 村上 操子
3号委員 増野 克己
4号委員 三元 精美 堀 勇
5号委員 ○山本 大和 奥野 正治 松永 妙子 柳井 義明

昭和61年度～昭和63年度

1号委員 横山 貢
2号委員 森下 正治 前田 明子
3号委員 大石 力生
4号委員 三元 精美 堀 勇
5号委員 山本 大和 ○奥野 正治 松永 妙子 柳井 義明

昭和63年度～平成2年度

1号委員 横山 貢
2号委員 森下 正治 前田 明子
3号委員 松原 弘
4号委員 横山 繁 堀 勇
5号委員 松田 輝夫 ○奥野 正治 澤井 潤子 河村 正男

平成2年度～平成4年度

1号委員 陽 信孝
2号委員 森下 正治 前田 明子
3号委員 松木 嗣夫
4号委員 横山 繁 堀 勇
5号委員 松田 輝夫 ○奥野 正治 澤井 潤子 河村 正男

平成4年度～平成6年度

1号委員 中原 正
2号委員 森下 正治 前田 明子
3号委員 松木 嗣夫
4号委員 横山 繁 堀 勇
5号委員 松田 輝夫 ○奥野 正治 澤井 潤子 野村 武

平成6年度～平成8年度

1号委員	藤本サツエ						
2号委員	森下 正治	前田 明子					
3号委員	田中 親明						
4号委員	中津江教子						
5号委員	○横山 繁	澤井 潤子	三好 督	下瀬 信雄			
	河野 宗昭						

平成8年度～平成10年度

2号委員	森下 正治	前田 明子					
3号委員	田中 親明						
4号委員	野村 武	中津江教子					
5号委員	○横山 繁	澤井 潤子	三好 督	下瀬 信雄			
	河野 宗昭						

平成10年度～平成12年度

2号委員	○森下 正治	前田 明子					
3号委員	梅地 信吾						
4号委員	宮内浩一郎						
5号委員	野村 武	澤井 潤子	三好 督	下瀬 信雄			
	河野 宗昭	菊屋 京					

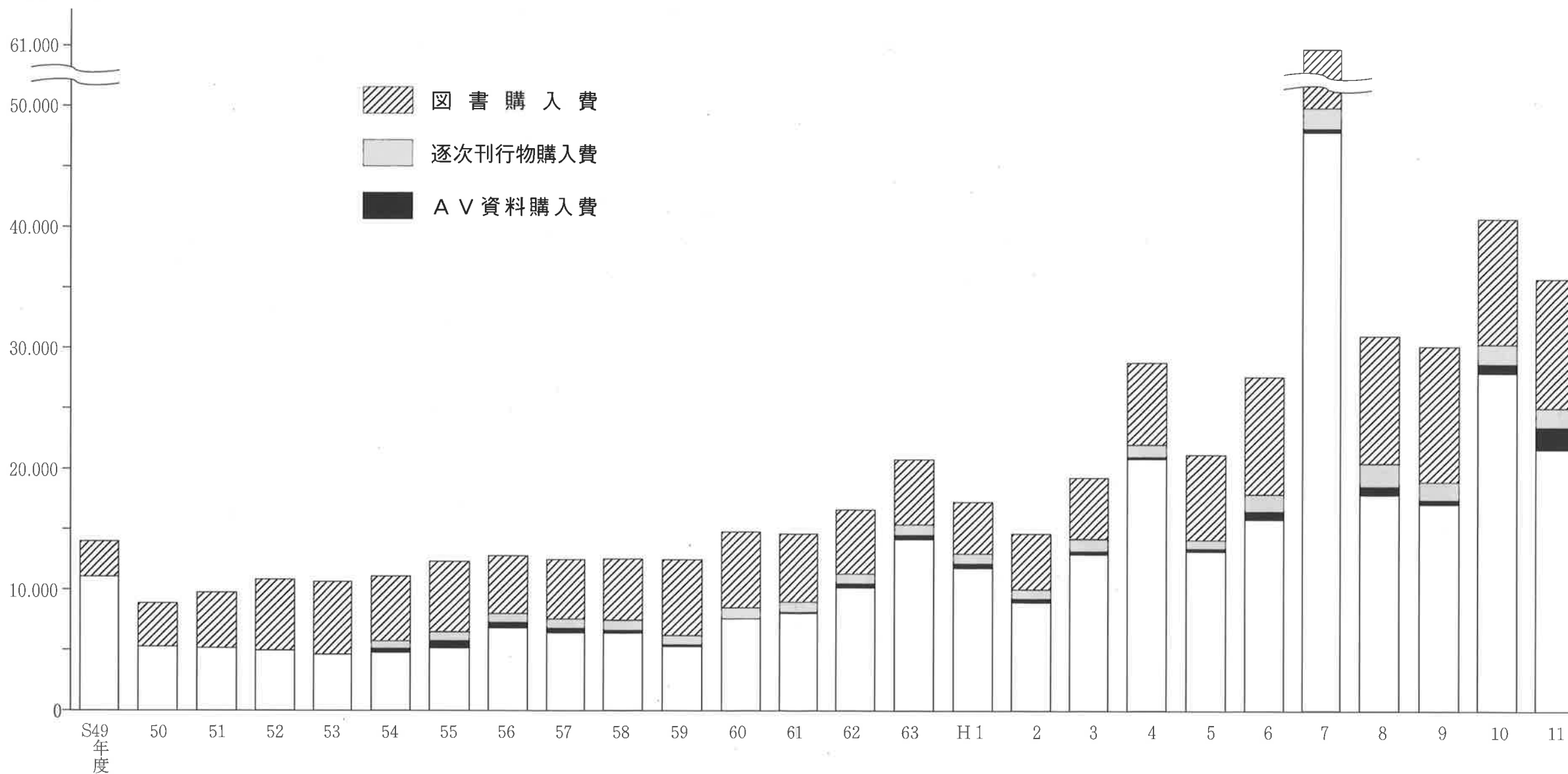
平成12年度～平成14年度

澤井 潤子	○三好 督	下瀬 信雄	河野 宗昭	宮内浩一郎			
菊屋 京	藤本 和男	今井 康子	中原 静子	中村 聡美			

○ 委員長

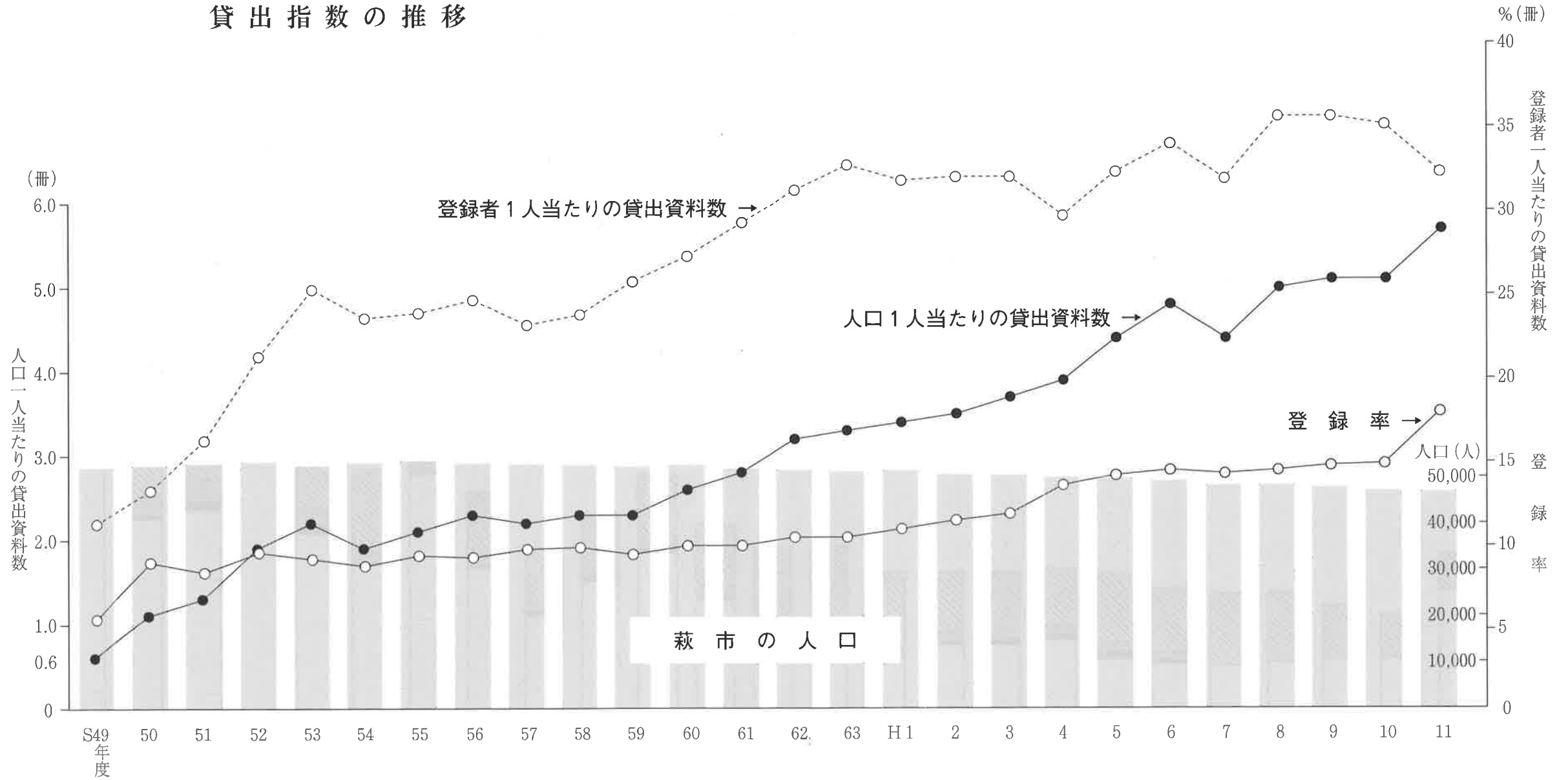
予算及び資料費の推移

金額 (千円)



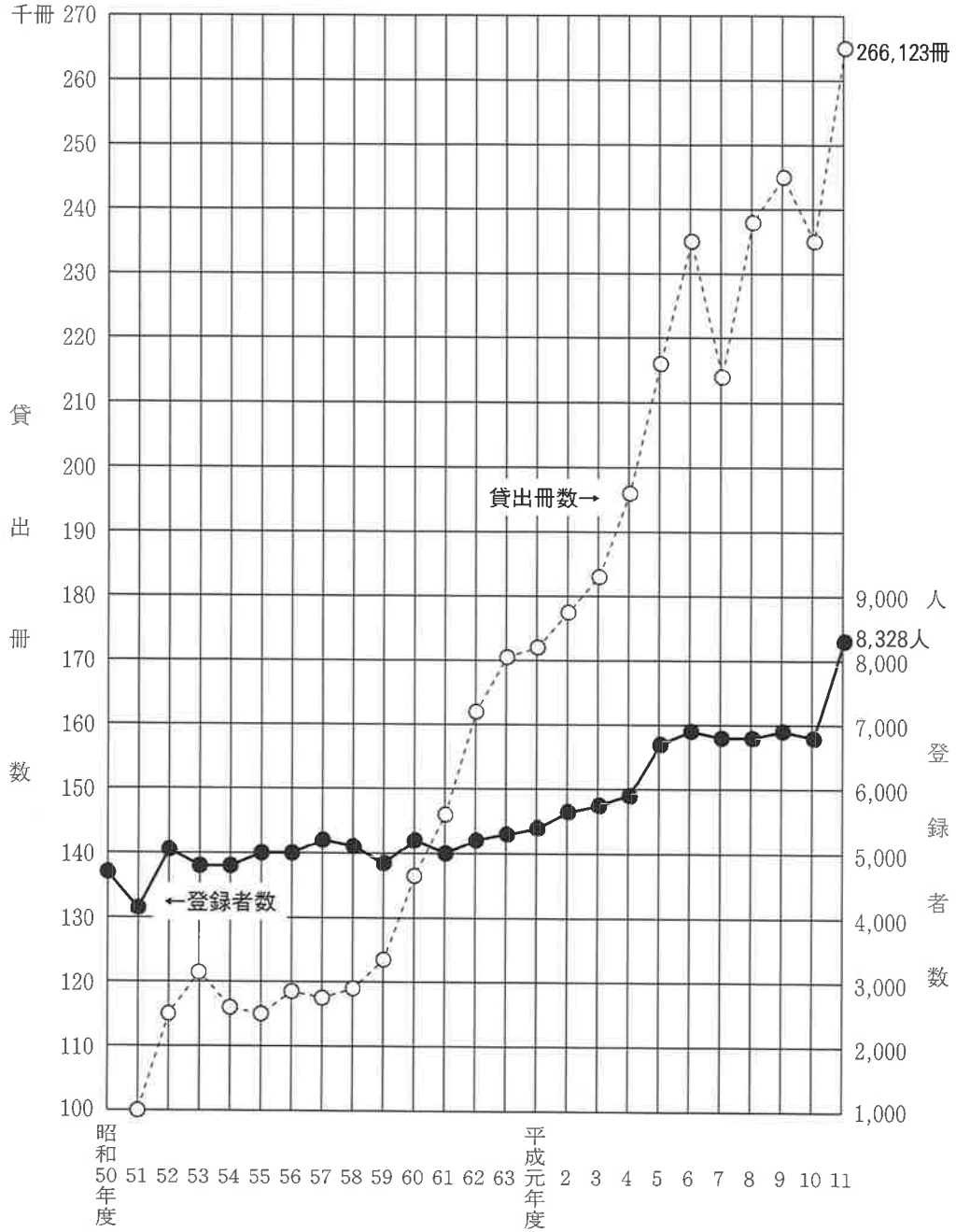
年度	S49 (1974)	S50 (1975)	S51 (1976)	S52 (1977)	S53 (1978)	S54 (1979)	S55 (1980)	S56 (1981)	S57 (1982)	S58 (1983)	S59 (1984)	S60 (1985)	S61 (1986)	S62 (1987)	S63 (1988)	H1 (1989)	H2 (1990)	H3 (1991)	H4 (1992)	H5 (1993)	H6 (1994)	H7 (1995)	H8 (1996)	H9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
予算額	13.979	8.882	9.752	10.828	10.638	11.117	12.341	12.823	12.503	12.550	12.517	14.809	14.634	16.648	20.819	17.275	14.671	19.292	28.852	21.226	27.653	61.261	31.036	30.211	40.763	35.807
図書購入費	2.904	3.606	4.577	5.864	6.001	5.357	5.849	4.812	4.906	5.063	6.283	6.275	5.626	5.284	5.392	4.252	4.595	5.048	6.788	7.065	9.679	11.330	10.541	11.224	10.375	10.704
逐次刊行物購入費	—	—	—	—	—	655	729	744	805	862	789	903	892	854	901	865	831	1.023	1.020	742	1.453	1.720	1.887	1.524	1.650	1.611
AV資料購入費	—	—	—	—	—	306	591	429	356	212	146	0	55	310	319	325	269	242	161	190	652	285	693	313	737	1.813

貸出指数の推移



年 度	S49 (1974)	S50 (1975)	S51 (1976)	S52 (1977)	S53 (1978)	S54 (1979)	S55 (1980)	S56 (1981)	S57 (1982)	S58 (1983)	S59 (1984)	S60 (1985)	S61 (1986)	S62 (1987)	S63 (1988)	H 1 (1989)	H 2 (1990)	H 3 (1991)	H 4 (1992)	H 5 (1993)	H 6 (1994)	H 7 (1995)	H 8 (1996)	H 9 (1997)	H10 (1998)	H11 (1999)
人口1人当たりの貸出資料数(冊)	0.6	1.1	1.3	1.9	2.2	1.9	2.1	2.3	2.2	2.3	2.3	2.6	2.8	3.2	3.3	3.4	3.5	3.7	3.9	4.4	4.8	4.4	5.0	5.1	5.1	5.7
登録率 (%)	5.3	8.7	8.1	9.3	8.9	8.5	9.1	9.0	9.5	9.6	9.2	9.7	9.7	10.2	10.2	10.7	11.2	11.6	13.3	13.9	14.2	14.0	14.2	14.5	14.6	17.7
登録者1人当たりの貸出資料数(冊)	11.0	13.0	16.0	21.0	25.0	23.3	23.6	24.4	22.9	23.5	25.5	27.0	29.0	30.9	32.4	31.5	31.7	31.7	29.4	32.0	33.7	31.6	35.3	35.3	34.8	32.0
人 口 (人)	52,252	52,724	53,077	53,482	52,724	53,326	53,693	53,214	52,997	52,766	52,589	52,740	51,894	51,564	51,264	51,574	50,618	50,580	50,056	49,741	49,329	48,314	48,312	47,804	47,190	46,922

貸出冊数・登録者数の推移

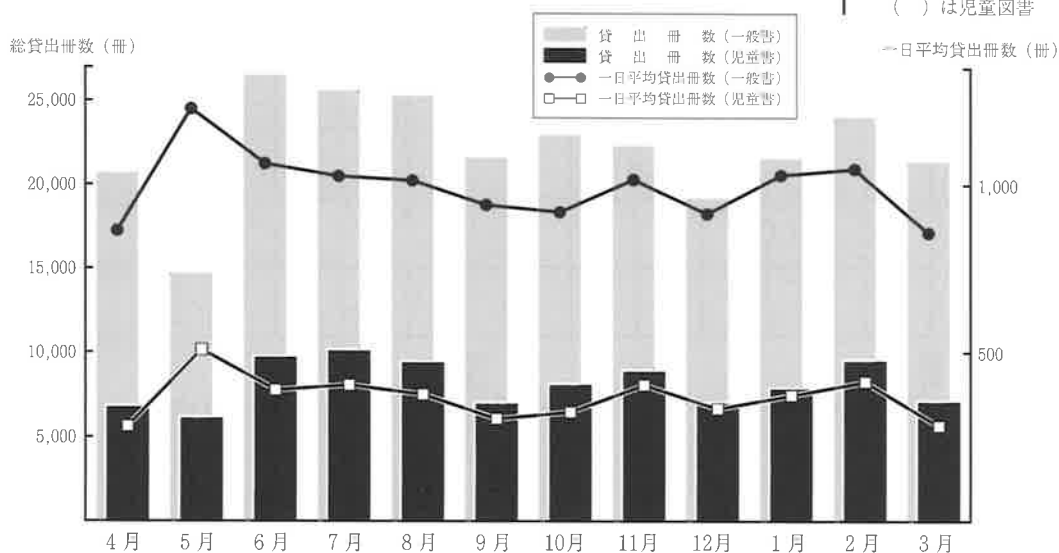


萩市立図書館事業概要（平成11年度）

月別館外貸出冊数

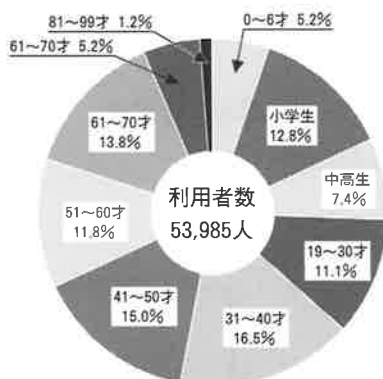
月	開館 日数	本館					巡回 日数	わくわく号			総貸出 冊数	一 日 平 均
		一般書	雑誌	児童書	A V	合計		一般書	児童書	合計		
4	24	11,547	1,345	4,524	548	17,964	8	519	2,214	2,733	20,697 (6,738)	862 (281)
5	12	6,778	858	2,321	394	10,351	8	573	3,767	4,340	14,691 (6,088)	1,225 (507)
6	25	13,681	1,815	5,819	741	22,056	8	602	3,881	4,483	26,539 (9,700)	1,062 (388)
7	25	12,758	1,593	6,645	685	21,681	8	517	3,420	3,937	25,618 (10,065)	1,025 (403)
8	25	13,297	1,518	6,840	711	22,366	8	395	2,541	2,936	25,302 (9,381)	1,012 (375)
9	23	11,960	1,626	4,034	687	18,307	7	398	2,924	3,322	21,629 (6,958)	940 (303)
10	25	12,076	1,615	4,482	632	18,805	8	588	3,588	4,176	22,981 (8,070)	919 (323)
11	22	10,877	1,495	5,231	537	18,140	8	570	3,635	4,205	22,345 (8,866)	1,016 (403)
12	21	9,704	1,408	3,828	545	15,485	8	558	3,159	3,717	19,202 (6,987)	914 (333)
1	21	11,187	1,537	4,837	567	18,128	7	477	2,997	3,474	21,602 (7,834)	1,029 (373)
2	23	11,815	1,641	6,019	561	20,036	8	585	3,479	4,064	24,100 (9,498)	1,048 (413)
3	25	11,728	1,549	4,917	605	18,799	8	454	2,164	2,618	21,417 (7,081)	857 (283)
計	271	137,408	18,000	59,497	7,213	222,118	94	6,236	37,769	44,005	266,123 (97,266)	982 (359)

() は児童図書



年代別利用者の割合

	0～6才	小学生	中学生	19～30才	31～40才	41～50才	51～60才	61～70才	71～80才	81～99才	計
利用者数 (人)	2,778	6,888	3,991	5,999	8,914	8,114	6,393	7,471	2,813	624	53,985
割合 (%)	5.2	12.8	7.4	11.1	16.5	15.0	11.8	13.8	5.2	1.2	100.0%



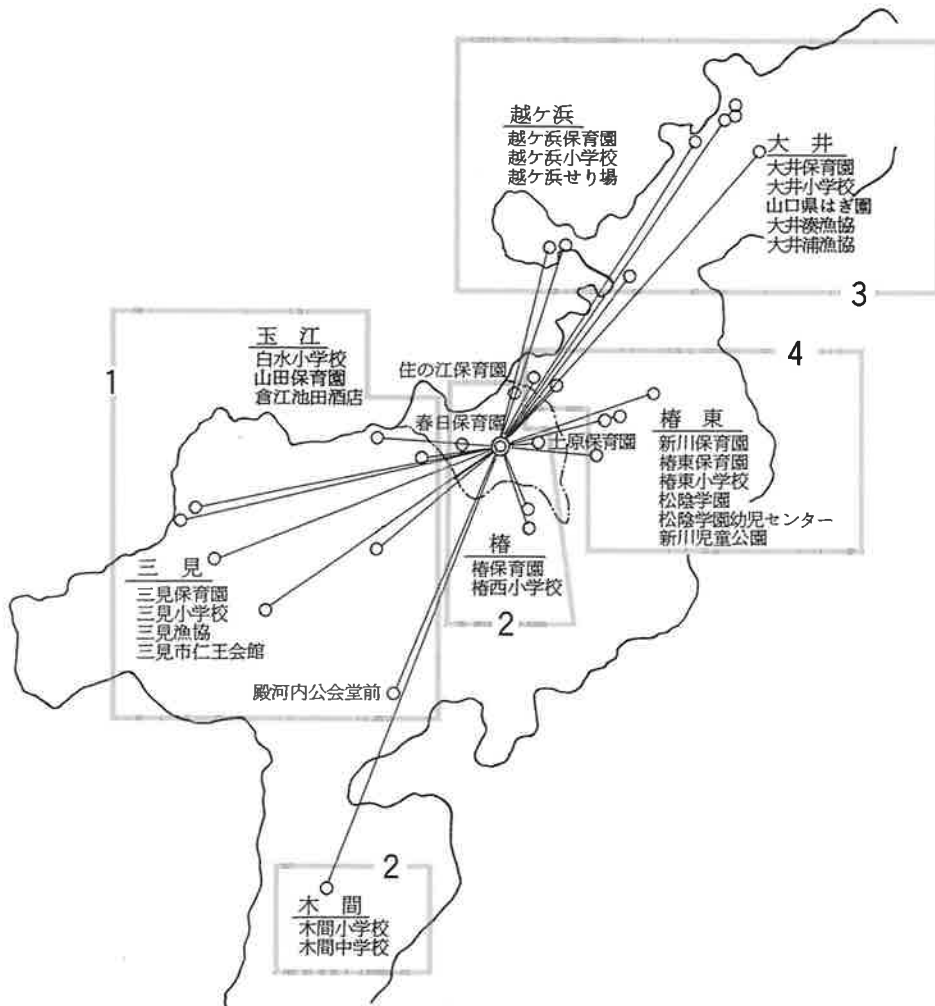
貸出文庫

配本先	貸出冊数	利用回数	年間利用冊数	配本先	貸出冊数	利用回数	年間利用冊数
大井公民館	140	6	840	大島公民館	140	6	840
大井浦文庫	40	6	240	大島保育園	60	6	360
明倫学童保育のびのびクラブ	20	3	60	白水文庫	50	8	400
見島公民館	90	6	540	無田ヶ原子供会	50	4	200
見島保育園	30	6	180	春日保育園	50	6	300
三見公民館	120	6	725	大井保育園	30	12	360
生きがいと健康の村	100	6	601				

文庫設置数 13ヶ所
 貸出期間 1か月～2か月
 貸出総冊数 5,646冊

移動図書館

開設	平成4年8月
図書館車	わくわく号(寄贈、国際ソロプチミスト萩)
乗車定員	3名
積載図書	約1,500冊
巡回開始	平成4年10月
巡回ステーション	28ヶ所
巡回日数	延94日(毎週木、金曜日)
貸出冊数	延44,005冊



移動図書館貸出状況

区 分		貸 出 (冊)			利用人数 (人)		
		一 般 書	児 童 書	合 計	一 般	児 童	合 計
1 コ ス	山田保育園	223	781	1,004	39	1,623	1,662
	白水小学校	35	2,257	2,292	13	451	464
	倉江	84	131	215	54	10	64
	三見小学校	377	1,251	1,628	27	638	665
	三見漁協	30	14	44	4	12	16
	三見保育園	256	2,058	2,314	89	681	770
	三見市	56	14	70	26	5	31
	殿河内公会堂前	396	22	418	75	1	76
2 コ ス	土原保育園	43	2,419	2,462	53	1,148	1,201
	住の江保育園	285	3,318	3,603	101	986	1,087
	椿西小学校	260	2,175	2,435	53	908	961
	椿保育園	204	2,855	3,059	103	1,459	1,562
	春日保育園	209	2,250	2,459	76	797	873
	木間小・中	84	308	392	36	78	114
3 コ ス	大井保育園	65	1,420	1,485	22	720	742
	はぎ園	386	111	497	135	0	135
	大井湊漁協	342	97	439	80	22	102
	大井浦漁協	131	151	282	30	36	66
	大井小学校	475	1,384	1,859	27	745	772
	越ヶ浜せり場	636	299	935	217	55	272
	越ヶ浜小学校	225	1,191	1,416	53	443	496
	越ヶ浜保育園	24	3,053	3,077	52	1,450	1,502
4 コ ス	新川保育園	336	1,956	2,292	113	856	969
	椿東保育園	116	2,677	2,793	69	1,364	1,433
	椿東小学校	196	2,086	2,282	10	1,075	1,085
	幼児センター	148	3,284	3,432	50	1,382	1,432
	松陰学園	110	13	123	50	0	50
	新川児童公園	504	194	698	115	36	151
総 計		6,236	37,769	44,005	1,772	16,981	18,753

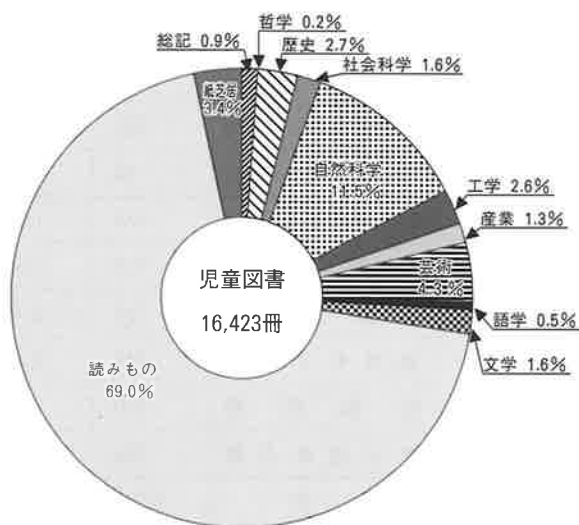
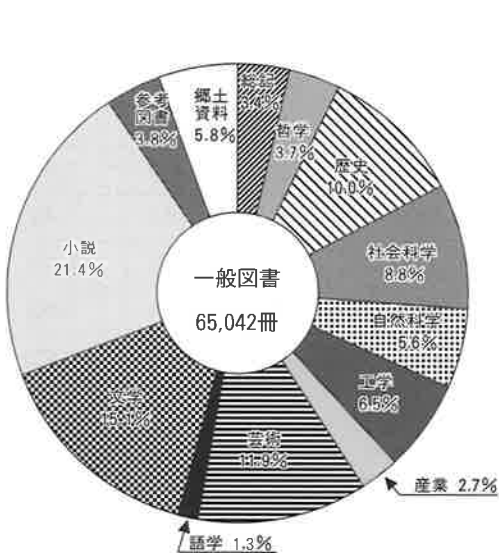
蔵書状況 蔵書総数 81,465 (平成12. 3. 31現在)

蔵書数

	本年度受入数	本年度除籍数	本年度末蔵書数
一般図書	5,833	9,406	65,042
児童図書	1,227	2,680	16,423
ビデオ・カセットテープ・CD	599	1	3,628
計	7,060	12,087	81,465
郷土資料(内数)	182	0	3,804
かみしばい(内数)	0	0	560

分類別図書蔵書数

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	小説	参考図書	郷土資料	紙芝居	総計
一般図書	2,182	2,425	6,525	5,730	3,663	4,241	1,752	7,757	739	9,801	13,925	2,498	3,804	-	65,042
児童図書	141	36	439	261	1,886	432	213	700	88	256	11,318	93	-	560	16,423
計	2,323	2,461	6,964	5,991	5,549	4,673	1,965	8,457	827	10,057	25,243	2,591	3,804	560	81,465



新聞・雑誌等一覧

新聞

朝日新聞	日本経済新聞	西日本新聞	図書新聞
毎日新聞	日刊工業新聞	山口新聞	毎日ウィークリー
読売新聞	中国新聞	デルタ新聞	日刊スポーツ
		山口県新報	朝日新聞縮刷版

その他

官報	県報
----	----

雑誌

月刊誌	山陰の釣り	猫の手帖	つりトッブ
アウトドア	J J 時刻	P A T I P A T I	日本児童文学
アクアライフ	R 時刻	母の友	俳句あるふ
アサヒカメラ	時事英語研	バレエボー	ひ
アスキー	実業の日	25 a n s	へア&メーク
新しい住まいの設計	実室	美術手帳	私の部屋ビクレ
アニメーション	C D ジャーナ	P H P	やさしい手誌
アニメーション	シテイランナ	フイメール	季刊
インターネットマガジン	詩とメルヘン	婦人の友	美しいキモノ
栄養と料理	主婦のパソコン	武芸春秋	美社四季報
エグゼクティブ	初歩のパソコン	文芸春秋	現代の図書館
S F マガジン	新諸君!	ベビーエイジ	四季の味
mc シスター	シン	盆栽世界	陶磁芸術誌
大相撲	スイングジャーナル	毎日ライフル	週刊
オール読	スキージャーナル	M I S	アエラ
音楽現	すてきな奥さん	ミステリーマガジン	サンデー毎日
おしゃれ工	すすば	ミセ	週間毎日
家庭画	正世	ミュージックライ	週間新潮
歌謡	セブンティーン	みんなの図書館	週間文春
近代将	装	メンズクラブ	週女性自
グズプレ	壮	メンズノンノ	隔週刊誌 (月2回刊)
暮らしと健	大法	モーターサイクリスト	アサヒパソコン
群ワール	太旅	モーターマガジン	オリオン
経営新	タ・ヴィンチ	山と溪谷	オレンジページ
芸術新	短中央公	ラジコン技術	株式につぼん
月刊自家用	テニスジャーナル	旅行読売	キネマ旬報
月刊消費	天文ガイド	歴史読本	サクロワッサン
月刊MOE	ドッグワールド	レイブティック	サビライ
現代農業	特選雑誌	R C マガジン	ダカーポ
公募ガイ	図書館雑誌	隔月刊誌	ナンバート
国文	トナリ	明日の友	プレジデント
子供科学	日経ウーマン	美しい部屋	(年2回)
ゴルフダイジェ	日経マネー	ウッドイライ	全国高速バス時刻表
サッカーストライ	ニュート	園芸ガイド	寄贈雑誌
ザ・21	ニューハウス	暮らしの手帖	外戸本
		C o b a l t	文芸山口
		時刻表 (J T B)	ボイス
		セサ	レコード芸術

図書館100周年によせて

い動図書館の 方々へ

岩谷夏樹

(大井小学校4年)

い動図書館の方々、いつもありがとうございます。わたしは、本が大好きなので、本を運んでくださるのがうれしいです。うちのおばあちゃんも湊漁協で借りるのを楽しみにしています。わたしは、毎回どんな本がくるのかなあと楽しみにしています。でも、本を返す日に、本をわすれそうになることがあります。

夏休みに、工作の本をさがしていたら、おねえさんが、「夏休みの工作終わった。」と聞いて、工作の本をさがしてくださいました。あのときは、ありがとうございました。

わたしが一番気に入っている本は、「サザエさん」です。いつも借りたいなと思っています。でも、わたしは、給食を食べるのがおそいので、「サザエさん」が借りられない時があります。その時は残念です。

これからも楽しい本を運んできてください。楽しみに待っています。

ワクワク号と わたし

大田瑛子

(三見小学校6年)

「はい。ワクワク号が来ましたよ。」と先生に言われ、本当にワクワクしながら、始めて本を借りたのは、まだ、保育園に通っていたころです。自分で始めて選び、自分で始めて借りた本。それは五味太郎さんの書いた「さる・るるる」。先日、三見小の図書室でもこの本をみつけ、とてもなつかしくページ

をめくり、ワクワク号との出会いを思い出したりしました。

私が本を読むことって楽しいなっと思い始めたのは、3年生のころだと思いま

す。おばあさんやおじいさんが元気いっぱい動きまわるのをみて本の中の人といっしょに笑ったり泣いたりしました。動物やお花がしゃべる本を読み、いっしょにお話したこともあります。

学年が上がるにつれ、人の命の尊さを感じさせる本を読むことが多くなり、生きることのすばらしさを本から学んでいます。

最近の私は、ワクワク号から知識をもらっています。総合的な学習で、「ハーブ隊」を結成し、ハーブに関する本を、もう何冊かりたことでしょうか。家庭科クラブで作るお菓子の知識も、ワクワク号からもらっています。

先週は、推理小説を借りました。時には探偵となり、犯人をおいつめ、時には、犯人となり、探偵と知恵くらべ。登場人物といっしょにハラハラ、ドキドキ。

本は私に本当にいろいろなことを教えてくれます。いろいろなところにつれていってくれます。また、自分自身をいろいろな人に変身させてもくれます。

「運動場にワクワク号が来たよ。」先生のそんな声を聞き、私は、今もワクワクしながら、ワクワク号の本をのぞきます。この本にしようかな、あの本がいいかな、やっぱりこれにしよう。ワクワク号は、私にとって大切な大切な友達です。ワクワク号、今日も私たちをいろんな世界につれていってくださいね。ワクワク号との出会いをこれからも幸せに思い、そして、大切にしていきたいと思います。

100周年おめでとう ございます

河 村 隆 子

(NPO 萩子どもセンター理事・保護司)

部屋の片づけをしていて何年経っても捨てられないでいるものがあります。整理整頓が得意でない性もあるのですが、「自分の人生を振り返る記念の物達」への愛着から他の人にとっては「ごみ」にしか見えなくても私にとっては「宝物」なのです。そんな「宝物」の1つが「4人の子育て」真っ最中に萩市立図書館

で司書の村上さんや「子育て仲間」達と一緒に学んだ「児童図書館の勉強会」のノートだったり、「布の絵本の会」でのテキストだったり…。

我が家の「子育て」を振り返る時、萩市立図書館とのふれあいの大きさに改めて感謝の気持ちで一杯になります。忙しい母親にとっての息抜きは、保育園帰りに子供と一緒に「児童図書コーナー」で絵本を選んで過ごす短いけれど楽しい時

間でした。衆議院議員になって、超忙しくなった父親にとっての末っ子とのふれあいは、土曜日の「お風呂」と日曜日の朝の「図書館がよい」でした。小学校1年生だった三女の心の中で、お父さんが以前より温かく存在感を深めた事は間違いありません。今、河村が国会議員として「子供の未来を考える議員連盟」や「学校図書議員懇談会」の世話役をしている原点は、こんな体験だと思います。

「活字離れ」や「ゲーム機」のせいで「本との出会い」のチャンスを失っては大変です。「きれる」子供や、「自殺」する大人が増えていく世相の一因はこんな事にもあるような気がします。アメリカのように「ポストの数ほど町の図書館」は必要です。萩市立図書館がこれまで果たしてきた役割の大きさに敬意を抱きつつ、市民の各層にとって「生涯教育の場」として更に充実していく事を願っています。

利用者からの要望

河 村 一 郎

(元萩市立図書館館長)

いま萩市立となっている図書館が創設100年を迎える。その間幾度変遷があったが、山口県下では最も古い歴史を持つという。萩市に移管される前の状況を思うと、利用が現在のような盛況を見せていることは館員の方々の御努力の賜物であり、利用者としてその御苦勞に謝意を表わすものである。

しかし利用者数・貸出数の多さを競うのが図書館活動のすべてである訳ではない。100年の歴史を回顧し、先人達の仕事を思いみる時、そのことが改めて反省されるのである。

図書館業務には有形文化財の保存という仕事があり、窓口の貸出しだけで終るのではない。蔵書の整理、蔵書の十分な保存手当、利用に便利のように諸目録の作成、購入図書の選択と分類、更には問合せに対応できるだけの専門的基礎知識の習得等、裏の仕事がウエイトを占めるのであるが、それが充分行われることが必要となる。

そうした仕事の中で先ず急がれるものとして、蔵書や新聞等の酸化対策があろう。特に戦中戦後期の地元で発行された新聞は郷土資料として重要であるが、当時の粗悪な紙質の為に劣化が激しく、めくるだけでポロポロとちぎれていく状態

である。

現在の蔵書庫は狭隘になっており、秩序的な整理もできにくい状態だと聞く。蔵書の中には一部100万円を超す古和書もあるという。少なくとも古和書漢籍類だけの書庫と、新聞雑誌等だけの書庫とを別に増設すべきであろう。

また大抵の図書館に郷土資料室があるが、萩にはそれがない。萩は維新との関係だけでなく、それ以前250余年の藩庁の所在地として防長両国の中心地であった。それが維新の過程で見捨てられた土地となったのであるから、藩政史は萩にとって欠かせない価値対象であるはずである。

また、一旦書庫内に収納した図書は全く死蔵といってよく、活用されない状態になっている。そこには多くの全集・叢書類があるが、市民のどれだけの人がその明細について知っているだろうか。市民への衆知・公開が図られるべきであろう。

萩というので、萩市民だけでなく市外・県外から資料を求めてくる人が多いのである。多くの書物を蔵しながら、学術研究に資する為に提供するという面が軽視されているように思われるのである。

その他要望は多いながら最後に1つ、2階にある児童図書室は階下に移すべきではないか。階段の上り下りは幼児には少し無理である。その上、学生自習室等と隣接しており、喧噪な幼児の声はふさわしくない。一考を願いたい。

以上、100年の記念を機会に、日頃の気付きを書いてみた。その内容については、大方の御理解を得られたらと切に思うものである。

図書館のますますの充実と発展を願っております。

人生で一番 幸せだったころ

北 村 知 紀
(郷 土 史 家)

多分、僕は図書館によって人間として目覚め育てられたのだろうと思っている。

いまの市役所東側の地に県立萩図書館（市立図書館も併設）が新築開館したのは、小学校4年生の3学期だった。モルタル造り、明るいグレーの2階建ての建物は、こどもの目になんとモダンで輝いて見えたことか。

真偽のほどを確かめたことはないのだが、県立図書館のあるのは萩と山口だけ

だと聞いて、何か誇らしい気分になったことを覚えている。

入り口をはいって奥へ進むと、そこに児童室があった。3方の壁ぞいの書架いっぱい、実にたくさんの本がいつも子どもたちを待っていた。僕は図書館が学校の帰り道にあったので、以後数年間、ここに入りびたりだった。

「むさぼり読んだ世界名作全集」

どの本もむしように面白かった。中でも特にひきつけられ、次々と読みふけたのが講談社の世界名作全集である。

「ああ無情」「宝島」「巖窟王」「乞食王子」、それから「十五少年漂流記」や「クオレ」「鉄仮面」「小公子」。まだまだある。「ロビンソン漂流記」「トム・ソウヤーの冒険」「家なき子」「アルプスの少女」「アーサー王と円卓の騎士」などなど。

格別好きだったのは冒険・伝奇ものだ。「三銃士」のダルタニヤンやアトス、ポルトス、アラミスとか「三国志」の劉備玄德、関羽、張飛らの名は今でも、その颯爽とした活躍ぶりとともによみがえってくる。

この世界名作全集が少年の心をとらえたのは、装丁と挿絵のすばらしさにもあった。ハードカバーの表はそれぞれの作品の名場面が描かれ、裏は必ず4つに区切られ西洋の紋章らしいものがあしらわれていた。梁川剛一や椋島勝一らの挿絵は、たちまちに子どもたちを別世界へ引き込む力をもっていた。

もちろん、ほかの本も読んだ。グリムやアンデルセン童話、宮沢賢治、アラビアンナイト。伝記も好きで、ポプラ社のエジソン、フェアブル、リビングストン、アムゼン、野口英世、キューリー夫人、チャーチルなど忘れがたい。

江戸川乱歩の探偵小説も読んだはずだ。ともかく少年期の旺盛な好奇心のままに、手当たり次第むさぼり読んだといえる。「よーし、ここにある本を全部読んでやろう」と、子どもらしい志を立てたことも懐かしい。

「想像力育てた宝箱」

何かのためではない、誰のためでもない。ただもう、ワクワクと面白く、楽しくて、幸せだから、読みふけたのだ。何時間か前に借りた本を夢中で読み終え、すぐまた別の本を借りることも珍しくなかった。

今、思い返すと、あの図書館の子ども部屋に入りびたっていた頃、僕は人生の至福の時をすごしていた。想像はいつだって時間と空間をやすやすと飛び越えて羽ばたいていた。

僕にとってそこは魔法の宝箱、秘密の花園だった。

本の虫が高じやがて文学少年になり、新聞記者になった。今もなお読んでは書

き、なにがしかの夢を捨てきれない我が人生を後悔はしない。だから、図書館に感謝している。

わくわく号の 走る町

桧垣 泉子

(国際ソロプチミスト萩初代会長)

過疎になりつつある農村漁村。同じ萩市にあっても文化の陽の当たらない所の子供達に本を身近で利用出来る様にと10年前ソロプチミスト萩認証10周年を記念して萩市に移動図書館を送る事になりました。管理運営を萩市にお願いしましたが最初は費用のいる事と中々返事が重く私達も何度か市長（小池氏）に面

会して私達の意とする処を説明してやっと承諾して貰って私達の希望が実現しました。夏の終わり音楽の鳴る中で市役所の前庭を発車して行ったわくわく号、昨日の事の様に懐かしく思い出します。時々町で擦れ違うわくわく号を見ると“今日も無事で走っている”とこちらまで嬉しくなってきました。

光陰矢の如しソロプチミストもあっと云う間に2002年に20周年を迎える事になりました。そこで10周年の時と同様萩市に役立つもので記念品をと又会員で考えました。市長さんにも相談に行きました。ふとした機会に図書館の方から移動図書館が如何に地域の子供達やお年寄りに喜ばれているかを聞き、その時出来たら2000冊積める車が欲しいとの事でした。

ある時みせて頂いた萩市内の先生の書かれた文章に……小さな体に大きな袋、いろんな大きさにいろんな色、はずむような元気な足どりで登校する子供達と出会った朝の一瞬、あ、今日は、移動図書館わくわく号の入る日だなと直感できる。給食時間に2年生の教室を回ってみると、普段よりやや早めに食事を終え重い袋を胸に支え静かに座って何かを考えていた。その願いは、早い順番に本と出会うことにより、すてきな本を手に入れることである。……中略 最近では本嫌いな子供も、本の種類、新しさに引き付けられ、自然に本に親しみ2週間に1回の割合で回ってくる「わくわく号」を待ち望んでいる子供が多くいる。週5日制に伴い休みが多くなったこの時期に、素晴らしい宝物のプレゼントありがたい。或る日、椿東小の子供が借り終えた後で地域の高齢者が手押し車いっぱい溜まった本を返し、又借りておられたので、ふと声をかけると、「私は、この日が一番楽

しみです。」との答えがかえって来た。押し車を重そうに押して帰られるお年寄り、新しく借りた本をいっぱい手にし、我が家に向かって帰る子供の後ろ姿を見た時、本がきずなとなり、温かい家庭が育つことを願わずにはられない。これは大久千登世先生の手書されたものです。私はこれを読んで、色々考えるよりソロプチミスト＝移動図書館 もうこれで行こう。「第2わくわく号」素晴らしいプレゼントが実現するのです。

丁度私共ソロプチミストが20周年を迎える年に萩に図書館が誕生して100年を迎えられるとか、その不思議な巡り合わせを喜びとし100年の歴史をたぐって行くと、この日本の西の果て遍地に文化をはぐくむ為に明治34年1月30日に山口県立萩中学校（現在の萩高等学校）の敷地内に当時郡長大田滝熊氏が図書館の必要性を感じ、有識者達が建築費備品費を出し合って熊谷家等から家蔵の貴重書を寄付され、阿武郡立萩図書館が開館されたとききました。ソロプチミスト萩もこの先達の残されたすぐれた遺産を受け継ぎ後に続く青少年が移動図書で健全に育て欲しいと願うものです。

野村市長は観光の低迷している萩に一つ希望のあることは移動図書館です。萩市の文化に大いに寄与しているとソロプチミストの業績を誉めて下さいました。

岩国市立中央図書館のB.M. 周東町のB.M見学させて頂いて大いに参考になりました。周東町の書棚が木製だと説明をきいて雨の日湿気を木がすいとり、スチール製だと本に湿気がいって良くないと、なる程とうなづきました。

1,000万円の予算で第2わくわく号を贈るに当たり、10年間会員が手作りのバザーをしたり、簡易保険のリポートを積立てて、汗水流して造り出した貴いお金である事を思うと萩市立図書館の歴史の一こまを私共に負わせて頂いた事を誇りにしたいと思います。

※B.M ブック モービル＝移動図書館



萩市立図書館

開設の思い出

松 田 輝 夫

(元 小 学 校 長)

昭和20年8月、日本は無条件降伏で終戦を迎えました。その年の12月1日、いち早く萩市立図書館が開設されました。たまたま、私は市の臨時雇いとして開設を手伝っていましたので、不確かですが思い出せる範囲の事を述べることにします。

私は陸軍の学校在学中、終戦を迎え8月末に帰郷しました。

いままでの価値体系がまったく崩壊し、いっさいが空しさに覆われた日々が続きました。しかし、生活をするための営みを見捨てることはできず、職探しを始め、ようやく得られたのが図書館開設のための臨時雇いでした。それは終戦の年の10月ごろでした。明倫小学校の内の有備館に、市内の各学校にあった図書を集められていたように記憶しています。薄暗い中に本立てが何列か並べられ、冷え冷えとした感じだったのが印象的でした。そこには、管理人として年配の堀田先生といわれる方が1人で管理して居られました。そこで、図書の整理をしつつ、移動する用意をすることになりました。

実は、土原にあった旧萩警察署が武道場に使っていた建物（現萩東中学校西南角のテニス場あたり）を改造して市立図書館を開設することが計画されました。その移動は勤めてから間なしだったと思います。小物などは荷車で私は何回か運んだように記憶しています。移動が完了したのが何時ごろかは覚えていません。移動してからは、本格的に、館長として確か観光課長だった河野道氏（萩中教頭河野通毅氏の弟）、事務長に脇英夫氏、それに吏員が1人だったか配置されました。

早速、開設のための図書の整備を中心に多忙を極めました。図書の分類も知識の無いままに、十進分類法で迷いながらもラベルをつくり貼っていったように思います。一番印象に残っているのは、「萩市立図書館」の看板づくりでした。館長がどこから仕入れられたのか、立派な分厚い板を用意され、元市長で松陰神社の宮司であった市川一郎氏に揮毫を依頼され、事務室で揮毫されました。墨をすっかりすって置くようにとのことで、私は用意された墨を2、30分すって待ちました。ところが来るなりこんなすり方ではだめだといわれ、すり始めましたが、いくらしてもよしの声はかからず、1時間以上すりつづけたくたになったことを覚えています。でも出来あがった看板はさすがに墨痕鮮やかで立派なものでし

た。現存していたら拝見したいと思います。

萩市史の年表によれば、終戦の年の12月1日に開館したとありますが、私の記憶では翌年の春ごろだったように思いました。開館するまでが長かったような錯覚をしていました。開館後は、戦後直後にもかかわらず来館者があったことに、私はふらついていて自分にとって強い刺激を受けました。暇があれば書棚を見まわり、手当たり次第読みふけていました。在庫の冊数はあまり多くはありませんでしたが、求める人には得がたい存在であったと痛感しました。

今から考えれば、あの戦後の混乱の中で、いち早く図書館の開設がなされたことに、当時の萩市の意気込みに感服させられます。萩市史の年表を見ると、12月9日には萩文化協会、翌21年2月には萩洋楽愛好会、4月には萩科学館が開設され、3月には婦人会も誕生しています。こうした戦後の萩市を振り返って、今の萩市の在り方を考えてみる事も大切なように思われます。

なお、私的なことですが、従弟と大学で友人だった事務長の脇さんとの語らいは、私にとってその後のあゆみに大きい示唆を得ました。翌年の春をむかえ、私は新しい歩み始めることにしました。

私の子育て時代の 思い出

～こどもの本との出会い～

宮田 眞理子

(現在柳井市在住)

私が子供の本と出会ったのは、母親向けの育児教室だった。図書館から司書の村上さんが来られて、確か「ルージーのおさんぽ」と「ぐりとぐら」「しょうぼうじどうしゃじぶた」などを読んでくださった。それまで絵本と言えばかわいいものがないと思っていたが、その時私の絵本に対する認識のなさを思い

至った。やはり絵本にも「本物」の価値があるものがあると知り、子供には「本物」を見せたいと思った。

それから私の図書館通いが始まった。息子が3歳、娘が1歳の頃、毎月1回図書館の2階の部屋に7、8人が集まり、子供の本の勉強会をした。核家族で誰も他に子供を見てくれる人のいない私は、他の人の迷惑も顧みず、図書館に子供を連れて行った。「絵本の勉強」やら「ファンタジーの勉強」やら毎月当番を決めて、その人を中心に研究会をした。子供のための本と言っても、芸術性が高く、

読んでいて楽しかった。子供のための本やら、大人のための本やらわからなくなる程だった。親子共々、毎日毎日絵本の中で暮らしていたような日々だった。

ある日、市民館で親子劇場の公演があった夕暮時のこと、息子が*「いちもくさんが来た。見に行こう。」と言うので、娘を抱っこして、救急車を見に、市民館の前の通りまで行った。息子が「いちもくさん」「いちもくさん」と喜んで手を振ったのを覚えている。そして、公演から帰ってびっくりした。なんと救急車で運ばれていたのは、萩高のグラウンドで野球をしていてケガをした夫だったのだ。幸いケガも大したことはなかったが、忘れられない思い出である。

それから「子供の本の勉強会」から発展して、お話しの会「むかしむかしの会」でお世話をさせてもらったり、布の絵本を作ったりした。友人もできて、ずいぶん楽しい子育てをさせてもらった。

今、その子供たちが大学生となって出て行ってしまった。彼らの出て行った部屋で、時々懐かしく萩の時代を思い出す。あれは私の子育ての原点だったと…。
※いちもくさん／「しょうぼうじどうしゃじぶた」に出てくる救急車の名前。

萩市立図書館 創立100年に寄せて

吉 田 弥 生
(現在下松市在住)

私が生まれ育った市の図書館は、市のシンボルともいえる公園の一角に大きな建物がひとつあるだけでした。よく利用するようになったのは高校生になってからでしたが、いつ訪れても閑散としていて、とても静かなその雰囲気が好きでした。当時の私にとって、図書館というのは、日常の空気とは違う知的な

雰囲気を持った特別な場所でした。広い建物の中で、本棚にぎっしりと並んでいる本を前にすると、いつも静かな興奮がわいてきました。その後、いろいろなところに住みましたが、図書館が、私にとって特別な場所から日常生活の一部となったのは、萩に住むようになってからです。

子どもたちも本が大好きだったので、萩では図書館が家の近くにあったのを幸いに、子どもたちといっしょに日課のように通い始めました。子どもの本がとても充実していて、図書館に行くのは、子どもたちにとっても大きな楽しみのひとつとなりました。そして、私にとっても、図書館で出会った雑誌や本が、書店で

本を購入していただいただけでは知り得なかった世界を開いてくれました。萩での私の諸活動の始まりは図書館からととってもいいでしょう。図書館で出会った1冊の本をきっかけにシュタイナーの学習会を始め、また1冊の教育雑誌をきっかけに、教育を考える会である「子育て井戸端会議たんぼぼの会」を始めたのでした。たんぼぼの会は、私が萩を離れるまでの数年間、毎月図書館の部屋をお借りして開いていました。

萩の図書館からは、図書館自体が生きているという息づかいを感じました。図書館が日常生活から離れたところに位置していた特別なものから、生活に根ざしたものになってきた私の方の変化にも関係していたかもしれません。そこで仕事をなさっている方々の暖かさと仕事への熱意も大きく関係していたと思います。あるとき、ある市民活動グループから図書館を考える会合を開くので、私に話をしてほしいとの依頼がありました。そのころ、山口市に市立図書館をという運動が始まっていて、私はなぜ県立図書館という立派な図書館があるのに市立図書館を、という素朴な疑問を持っていたもので、図書館についていろいろと調べていたのです。専門に学んだこともない一利用者にはすぎない私に依頼があったのも、利用者としての視点から図書館について語ってほしいということだったと思います。話をすると決まってからは、図書館についてもっと知りたくなり、できるだけ多くの資料にあたりました。そして、そこから多くを学びました。

図書館というのは、そこに住んでいる人たちが不断に情報を得て、主体的に判断して行動していくための情報を提供していくに足るだけの資料を備えており、ひとりひとりがよりよく生きるため、民主主義社会を基礎から支えている機関である。その資料を資料足らしめるためにも、図書館で仕事をする人は専門職員として身分が保障されていなければならない。また、十分な資料を提供し、それらを確保する書庫の充実のためにある水準以上の図書館費が必要である。そして、新しい図書館とは……。

調べていくにしたがって、それまで以上に図書館という施設の重要性を感じました。自学自習の基礎を支えてくれた萩の図書館が、よりよい図書館として育ってほしいとの願いを込めて、こういった話をさせてもらったように記憶しています。

萩に図書館ができて百年になるとのこと。百年前に産声をあげ、そこに住む人々とともに育ってきた図書館。今は萩の地を離れましたが、萩を訪れるときは時間の許す限り図書館に寄り、その成長を楽しみにしているひとりです。貴館の益々の充実発展をお祈りいたします。

図書館史年表

明治34年（1901）	1月13日	阿武郡立萩図書館が萩中学校の敷地に創立開館 帝国分類採用
43年（1910）		婦人閲覧室落成（滝口房子・菊屋安子氏寄贈）
44年（1911）	2月	創立10周年記念式
	7・8月	夏期閲覧所を西田町に開設
45年（1912）		萩町立明倫図書館開設
	7月	夏期閲覧所を西田町に開設
大正元年（1912）	8月	夏期閲覧所を西田町に開設
5年（1916）		萩町立椿図書館開設
6年（1917）		萩町立椿東図書館開設
8年（1919）	12月	帝国分類を取り止め、新規受け入れ分から山口分類 を採用
12年（1923）		萩町立山田図書館開設 萩町立越ヶ浜図書館開設
	4月	郡制廃止により阿武郡立図書館を山口県に移管し、 山口県立萩図書館と改称
13年（1924）		三見村立三見図書館開設 大井村立大井図書館開設
14年（1925）		六島村立大島図書館開設
昭和3年（1928）		萩町立木間図書館開設
4年（1929）		見島村立見島図書館開設
6年（1931）	10月	創立30周年記念式を挙行
10年（1935）	6月	開館35周年記念図書「幼時の見聞」林茂香 著 刊行
20年（1945）	12月	市内の各国民学校に併設されていた市立図書館を統 合して土原に萩市立図書館設立
22年（1947）		C I E 指令により一部図書を封鎖並びに焼却
	7月	貸出文庫に勤労文庫を設け勤労青年の教養に資する
23年（1948）	3月	県立萩図書館評議員会創立（滝口吉春氏他13名）
	5月	萩ユネスコ協会事務局を図書館におく
24年（1949）	5月	これよりN D C（日本十進分類法）を採用

昭和25年（1950）	12月	C I Eの指導により、江向に新館を建て、萩市立図書館を合併
26年（1951）	2月	移転式並びに創立50周年記念式挙
27年（1952）	1月	萩童話研究会を開設、事務局を館内に置く。童話会例会を毎月開催
31年（1956）		見島丸船上図書館を開設
35年（1960）	8月	菊ヶ浜に青空図書館を開設
36年（1961）		菊ヶ浜に青空図書館を開設 萩市より委託を受け山本勉弥文庫を設置
38年（1963）	8月	菊ヶ浜に青空図書館を開設
39年（1964）		夜間開館 午後8時30分まで
49年（1974）	3月	山口県立萩図書館閉館
	4月	萩市立図書館設立
	6月	萩市立図書館新築完成
	7月	萩市立図書館協議会発足
	9月	萩市立図書館開館式挙 貸出冊数1人2冊
50年（1975）	6月	「こどもの会」開始 現在に至る
	7・8月	講座「子どもの本をよむ会」－第1期 絵本－
	10・11月	読書週間中の開館時間延長（同50年～63年）
51年（1976）	6・7月	講座「子どもの本をよむ会」－第1期 絵本－
	7～11月	講座「子どもの本をよむ会」－第2期 よみもの－
	10月	市民館維新資料展示室で「本が語る歴史」展開催
52年（1977）	4月	貸出冊数3冊に
	7～11月	「絵本をよむ会」開始 同54年まで
	12月	カセットテープ・テープレコーダー貸出、視覚障害者と70歳以上の人
53年（1978）	4月	貸出冊数4冊に カセットテープ貸出60歳から
	8月	点字図書コーナー設置
	11月	クラシックレコードコンサート（毎月1回）
54年（1979）	9月	図書館開館5周年記念講演会（講師 図書館施設研究所長 菅原 峻氏）
	12月	読書会「あんずの会」開始

昭和54年（1979）	12月	[子どもの本の勉強会] 開始 同63年10月まで
55年（1980）	11月	「布の絵本の会 グループてんとう虫」 結成 現在に至る
56年（1981）	11月	市民館維新資料展示室で図書資料展「山県周南とその門下生」 展開催 図書館施設（自動ドア、身障者トイレ設置）
57年（1982）	7月	ストーリーテリングの勉強会 同60年6月まで
58年（1983）	4月	「むかしむかしの会」（お話し会） 開始、現在に至る
	11月	市民館維新資料展示室で図書資料展「昔の辞典、事典」 展開催
59年（1984）	8月	布とあそぼう手作り会 以後平成9年まで毎年8月に開催
	11月	第1回布の絵本展（開館10周年記念） 以後平成6年まで毎年開催
61年（1986）		高羅芳光氏500万円寄附（図書コーナー設置）
63年（1988）	2月	児童文学講演会（講師 佐々木鶴代氏）
	11月	工作の会 以後平成12年まで毎年8月に開催
平成元年（1989）		たんぼぼ（子育てについて考える会） 平成5年まで月1回集会活動
	11月	図書館開館15周年記念 布の絵本展 人形劇団竹の子公演開催
2年（1990）	4月	CD貸出開始
	11月	山大人形劇団グループ「ピノキオ」 公演開催
3年（1991）	3月	手づくり仕かけ絵本の会（講師 徳永桂子氏）
	5月	布の絵本で遊ぶ会開催 以後平成7年まで毎年開催
	9月	図書館壁塗装替え 「記念展 大人と子どものための猫の本展」
4年（1992）		郷土資料目録発行
	8月	移動図書館「わくわく号」 開設式挙行（国際ソロプチミスト萩より寄贈）
	10月	わくわく号運行開始
5年（1993）	1月	市制60周年記念 読書感想文、感想画コンクール

- 平成 5 年 (1993) 5 月 吉田松陰関係蔵書目録発行
6 月 お母さんのための絵本講座 (翌年 3 月まで)
- 6 年 (1994) 3 月 児童文学講演会 (講師 村中李枝氏)
4 月 日曜日の閉館が午後 5 時に変更
6 月 和漢古書蔵書目録発行
図書館開館 20 周年記念
講演会 (講師 赤木かん子氏)
- 7 年 (1995) 3 月 萩の文学探訪会
人形劇団竹の子公演
7 月 諸家旧蔵書目録発行
図書館改修工事 (5 月 15 日～7 月 31 日まで)
(この間わくわく号と公用車バンの 2 台で対応)
8 月 図書館改修後開館
- 9 年 (1997) 5 月 館内整理日を月末から第 3 水曜日に変更
12 月 山口県立図書館巡回展「飛耳長目策」展開催
記念講演 (講師 静岡大学教授田村貞雄氏)
- 10 年 (1998) 12 月 コンピュータ導入 (機種 NEC)
起動式 (12 月 10 日)
貸出冊数 10 冊 + AV 資料 2 点となる。
- 12 年 (2000) 4 月 こども用ビデオ貸出開始
7 月 子ども読書年記念
影絵の会 (影絵グループ「べっぴんしゃん」)
8 月 宮西達也 絵本原画展
手づくり絵本教室 (講師 宮西達也氏)
12 月 国際アンデルセン賞・オーナーリスト図書展
絵本の読み方教室 初級編 (講師 山本安彦氏)
- 13 年 (2001) 1 月 図書館創設 100 周年記念
記念式典
図書館のあゆみ展

参考資料

萩市立図書館の建設に向けた議会の動き

(萩市議会会議録より)

<昭和44年12月定例会>

山口県立萩図書館の移管問題について（市長報告）

県立図書館の移管問題がございます。県当局におかれては数年前から県立図書館が山口県に2～3カ所、山口県の中央部に県立図書館があるのは当然であり、他の1カ所として萩市にある、従前は岩国とか、その他に県立図書館がたくさんあったわけがございますが、逐次整理されて現在県立として残っておるのは山口と萩である。萩でも数年前から県の人員整理といいますか、人事の刷新、その他に関連して県から手を引きたいという意向がございました。たまたま県立青年の家が来年夏までに発足するわけで、その際には6～7人の人員が青年の家に県の職員としてしているわけです。同じ社会教育施設としているわけです。県の教育委員会としては地域採用は非常にむずかしいので県教育委員会内部でそういう人事配転をしなければなりません、それに関連して従前からの懸案であった県立図書館、萩市にとってくれ、というようなお話でございました。先日県の教育委員会次長がその交渉にこられましていろいろ意見交換をいたしました。こういうすべて何もかも県に押しつけるという私どもは気持ちではありませんけれども、せっかく歴史的にも阿武郡立図書館として全国ではじめてスタートした由緒ある図書館でございますし、蔵書においても非常に価値ある珍しい蔵書もございますし、北浦開発の文教面という方面からいっても県立図書館が萩市にあって差しつかえないじゃないかと、青年の家についても市がむずかしいところをやっていただいておりますし何もかも県におんぶするということもいつまでもできませんと思います。で最終的には今人間3人くらいそこに配置されておりますが、そうしてまた夜警というものも臨時の夜警をおいておられます。当日話しましたことは、少なくとも再建の終わる47年までは今のままやってもらいたい、ただし夜警の分については市が市の財産であるし、建物は市のものであるからこれを管理するという意味で夜警の費用については市が負担いたしましょう。こういうふうに話をしております。で再建完了のときには条件つきで萩市が受け持つということも考えられる。こういうふうなお話をしておきました。県でもそれをもとにしてお考えくださるようでございます。比較的私が想像しましたよりも何といたしますか、県は理解をもってこの問題に対(して)処してもらえるものとただいまのところ推測いたしております。交渉中でございますので大体の空気は以上でございます。結論的に

はあくまで私はせっかくの図書館であります。むしろ利用者が最近少ないのでもう少し利用者を多くして、申し落としましたが、特に図書代について非常に少ない、図書費の一部を市が負担するとこれは当然だろうと思いますのでそういう約束はいたしておきます。以上図書館についてでございます。

<昭和47年3月定例会>

市立図書館に関する要望書の決議について

次に議員提出議案第1号要望書の決議についてでございますが山口県立萩図書館の存続と整備拡充につきましては今日まで各階層からその必要性につき強く要望されてきており同館が萩市を中心とした北浦地区住民の文化の向上に大きく寄与されてきていることは衆知のとおりであります。当委員会といたしましては本案につき全員異議なく原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

<昭和48年9月定例会>

市立図書館の建設と今後の予定について（市長報告）

市立図書館建設についてであります。山口県当局は1県1館主義の下に、地方の県立図書館をそれぞれ市に移管を進め、萩市に対しても7、8年末その申出があったことは御高承のとおりであります。その間市に於ては県立萩図書館の由来から市の財政状況から、その時期でないことを強調し交渉を延引して来たのであります。先年市財政の安定化したことと、このたび建築中の市庁舎敷地内に図書館があり、この撤去を迫られていることから本年初頭から交渉を再開した次第であります。結果としては従来の他市に於ける経緯と市庁舎建設との関連に於て、市に移管を受けることとし、ただし条件としては市財政に急激な圧迫を及ぼさない様、県から特にその面の大幅な配慮を受けることを付したのであります。計画としては市庁舎敷地から撤去のこの際市で市立図書館として新築すること。

場 所／中央公園南東部労働会館隣接地

鉄骨造2階建 延約1,320平米

事業費概算／約1億円とし

国庫補助 2千万円

県費補助 4千万円

市 費 右の残額とし起債及び自己財源とする

右の国、県費補助は内定を受けております。なお、この外の条件として明年度を初年度として当分の間運営費の補助を県に要求しておりますが、これは県におい

て検討中であります。出来れば10月に着工し、市庁舎工事と市民の図書館利用にも極力支障の少ない様推進するとともに、完成後は萩市の教育文化施設としてはずかしくない運営をいたしたいものと考えます。申しおとしましたがもちろん蔵書はすべてそのまま移管されるものであります。

<昭和49年6月定例会>

市立図書館の建設と今後の予定について（市長報告）

市立図書館の建設と今後の予定についてであります。当初9,500万円、3月末日完工の予定で、昨秋10月25日に着工いたしました市立図書館につきましては、石油ショックによる資材の値上り及び入手難と防火関係の一部設計変更によって建築費が、1億157万5,000円となり、工期もおくれておりましたが、いよいよ6月末日には本体工事が完工いたす運びとなりました。今後まだ玄関までの通路や自転車置場など若干の外構整備が残っておりますので、市立図書館としての全体的な完成はいましばらくの期間が必要かと考えます。図書館の姿は少し変わった形をしておりますが、これは将来図書館と郷土博物館を合わせて一つのまとまった建物とする構想のもとに今回はまず図書館部分をつくったものでありますので、後日博物館部分が完成しますと完全な形となる予定であります。

なお、7万4,850点の資料は3月30日に県から譲渡を受けましたが、引き続きその分類切替えと新規購入図書の整備などの作業を急いでおり、開館は9月下旬を予定しております。

参考資料

陳 情 書

陳情の要旨

萩市立図書館の建設にあたり、県立萩図書館の沿革その他、特殊事情を考慮して、建設費の補助金をお願いします。

萩市立図書館の建設について

山口県立萩図書館は、今から72年前の明治34年1月30日、県立萩中学校内に「阿武郡立萩図書館」として開館したものであり、県下で最初の図書館であるとともに、わが国最初の郡立図書館でもあります。

その設立に際しては、当時の阿武郡長大田滝熊氏の趣旨に賛同した萩町の菊屋剛十郎・明木村の滝口吉良両氏が建設費および図書費を、奈古村の西村礼作・福川村の岡十郎両氏が備品を、萩町の熊谷万吉氏が家蔵の貴重書をそれぞれ寄付いたしております。

館の運営は郡長から委嘱された商議員9名によって行なわれ、萩中学校長が館長を兼任いたしました。明治44年3月には、創立10周年記念事業の一つとして、萩町の菊屋安子・明木村の滝口房子両氏が婦人閲覧室1棟を寄付いたしました。その後大正12年4月1日に郡制が廃止されると同時に県立に移管されましたが、萩図書館は創立以来萩市および萩市を中心とする北浦諸町村を対象として文化センター的な活動を地道に行なってきたものであります。

第2次大戦後、占領軍C I Eから、萩市の中央において広く市民のために供するようにとの強力な指示があつて、萩市は江向に図書館を新築して県に無償貸与し、昭和26年2月現在地に移転しました。

これより先、萩図書館長は萩中学校長の兼務を廃され専任館長が任命されました。それ以来図書館本来の住民のための社会教育機関として、また北浦の文化運動の中心として活動してきました。

その後県当局は、県立図書館の1県1館の方針を打ち出されるとともに、萩市に移管することを前提としてその運営が続けられてきました。たまたま市は財政再建の過程にあり、移管の時期の延期ならびに移管に対する県の補助について県

教委ともたびたび協議を重ね、善処を確約されてきた次第であります。

このたび市庁舎改築にあたり、その建設予定地の一部に図書館があることから、これを移転しなければならなくなりました。県当局ではこれを機会に県立萩図書館を廃止する意向を明確にされ、萩市に於ても移管を受入れる方向で検討を続けて来ました。その間に於て県立図書館廃止に反対する市民が県議会に存続を請願し、文教委員会に於てはこれを採択されて今日に至っております。

70年の歴史を有する県立萩図書館を市立図書館として発足する決意の中には、財政的にまことに苦しい事情を十分に御賢察いただき、また発足後毎年市にかかって来る運営費の重圧も御考慮の上、補助金の交付について格段の御配慮をお願い致す次第であります。

昭和48年

萩市長 菊屋嘉十郎

市立図書館建設計画

○ 事業計画

1. 鉄筋コンクリート2階建

建物面積 535m² (延面積 1,070m²)

2. 工事予定

着工予定 昭和48年9月20日

完成予定 昭和49年3月31日

3. 事業費

(A) 工事費	本工事費	63,020,000円
	付帯工事費	16,980,000円
	電気工事費	4,250,000円
	給排水工事費	1,580,000円
	冷暖房工事費	11,150,000円
	計	80,000,000円

(B) 整地費および工作費	1,100,000円
(C) 初年度調弁費	10,000,000円
(D) 設計管理費	5,000,000円
事業費合計	96,100,000円
○ 資金計画	
一般歳入	22,100,000円
地方債	14,000,000円
国庫補助金	20,000,000円
県費補助金	40,000,000円
合計	96,100,000円

参 考 文 献

- ・萩市史 第2巻 萩市編
- ・年 表 萩市編
- ・山口県図書館史稿 升井卓弥著
- ・明倫館 山口明倫館 越氏塾和漢書目録 菟永秀夫著
- ・目で見る明倫館 田中誠著（史都萩）
- ・防長新聞
- ・萩実業新聞
- ・山口県立萩高等学校百年史 山口県立萩高等学校編
- ・山口県立図書館年報 山口県立山口図書館編
- ・行啓記念山口県立山口図書館年報 山口県立山口図書館編
- ・山口県学事関係職員録 山口県教育会編
- ・山口県職員録 山口県庁編
- ・山口県統計書 山口県編
- ・山口県統計年鑑 山口県統計協会編
- ・山口県勢一斑 山口県庁編
- ・山口県勢要覧 山口県統計協会編
- ・統計萩 萩市総務部企画課統計係編
- ・市勢と観光 萩市役所編

図書館100年の歩み

平成13年1月30日発行

編集・発行 萩市立図書館

印刷 三共印刷有限公司

